

ISSN 1882-9848

インドネシア
言語と文化

Bahasa dan Budaya:

Jurnal Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh Jepang
〈第 27 号〉

日本インドネシア学会

Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh Jepang

2021 年

インドネシア 言語と文化

**Bahasa dan Budaya: Jurnal Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh
Jepang**

第 27 号 (2021 年)

目次

【論文】

インドネシア語の最上級について (On the superlative in Indonesian)	佐近 優太 (SAKON Yuta)	1
ジャワ語における呼びかけ語と人称代名詞との 微妙な関係についての試論 Considering addressing terms, first person pronouns, and third person pronouns in Javanese	三宅良美 (MIYAKE Yoshimi)	19
Kondisi Layanan Halal di Jepang dan Tantangannya: Melalui Pengalaman Mensupport Restoran“Kiwamiya” (日本におけるハラール対応の現状と課題—レストラン「極味 や」のサポート経験から—)	OHGATA Satomi (大形里美)	36
Pengajaran Kata Bilangan dan Penjodoh Bilangan Berasaskan Data Korpus Digital	Norliza Jamaluddin	57
日本インドネシア学会会則		67
編集後記		69

インドネシア語の最上級について¹

On the superlative in Indonesian

佐近 優太 (東京外国語大学大学院博士後期課程)

SAKON Yuta

(Doctor's course, Tokyo University of Foreign Studies)

Abstract

Indonesian has two superlative forms: prefix *ter-* and *paling*. There are no formal restrictions on *paling*, but the prefix *ter-* can only be added to words of two syllables or less (Sneddon et al. 2010; Alwi et al. 2007). However, few previous studies have examined the differences other than the form. Therefore, this paper investigates the relationship between the meaning of adjectives and both superlative forms based on three sub-corpora (300,000 sentences) in the Leipzig Corpora Collection, using the statistical method of hierarchical cluster analysis. The results show that the prefix *ter-* is more likely to be associated with adjective pairs with contrasting meanings, while *paling* is less likely to be associated with adjective meanings. This may be due to the fact that the prefix *ter-* was unevenly distributed in frequency, which promoted entrenchment of the construction. Future issues include the importance of using statistical analysis in Indonesian language research and the analysis of the factors that contribute to the different uses of words that appear to the same degree in both forms.

キーワード：インドネシア語、構文文法、最上級、接頭辞 *ter-*、階層的クラスター分析、コロケーション

1. はじめに

インドネシア語は最上級を形成する手段として *paling* と接頭辞 *ter-* という二つの形式を持つ。形式的には *paling* は自由形態素であり、英語の *most* のように副詞として後続する形容詞を修飾する一方で、接頭辞 *ter-* は拘束形態素である²。

- (1) *paling kaya* / *ter-kaya* 「最も裕福な」
 most rich / *TER-rich*³ (Sneddon et al. 2010: 185)

¹ 本稿は、日本インドネシア学会第 51 回研究大会 (2020 年 11 月 7 日、於オンライン) で発表した内容に基づいている。

² 基本的に *ter-* がそのまま語幹に接続するが、語幹の冒頭音が *r* の場合 *te-* へと変化する。例えば *rendah* 「低い」に接頭辞 *ter-* が付与された場合は *terendah* 「最も低い」となる。

³ 後に説明するように、接頭辞 *ter-* は最上級を形成する以外にも様々な機能を有する。そのため、本稿では便宜上接頭辞 *ter-* のグロスに *TER* と表記する。

(2a)と(2b)にあるように、**paling** は形容詞に対して共起制限を持たないが、接頭辞 **ter-**は三音節以上の語には接続できないという形式的差異が存在する (Sneddon et al. 2010; Alwi et al. 2007)。また直接接続する語が二音節であっても、全体で複合語的である場合も接頭辞 **ter-**を用いることは出来ない(2c)。

- (2) a. paling berani / *ter-berani 「最も勇敢な」
 most brave / TER-brave
- b. paling berguna / *ter-berguna 「最も有益な」
 most useful / TER-useful
- c. paling keras kepala / *ter-keras kepala 「最も頑固な」
 most hard head / TER-hard head (Sneddon et al. 2010: 185)

ただし、三音節以上であっても一部の語は例外的に接頭辞 **ter-**をつけることが出来る。またこの場合 **paling** よりも接頭辞 **ter-**の方が好まれる(Sneddon et al. 2010: 185)。

- (3) a. paling belakang / ter-belakang 「最も後ろの」
 most behind / TER-behind
- b. ?paling kemuka / ter-kemuka 「最も目立った」
 most front / TER-front (Sneddon et al. 2010: 185)

このような形式的差異はあるものの、意味的には両形式は同一であるとされる。つまり(4)のように、形式的な制限がない場合は自由に交替が可能である。

- (4) a. Tuti dan Budi memang tinggi, tetapi Edi yang ter-tinggi.
 PN and PN really tall but PN REL TER-tall
- b. Tuti dan Budi memang tinggi, tetapi Edi yang paling tinggi.
 PN and PN really tall but PN REL most tall
 「Tuti と Budi は本当に背が高いが、Edi が最も高い」 (Tadmor 2008: 802)

しかし、音節の制限に違反しなければ両形式は等価であるという分析は両形式の生起頻度を説明できないという問題点がある。例えば **baik** 「良い」を最上級形式「最も良い」にする場合、**paling** と接頭辞 **ter-**の両方を用いることが可能である。しかし Web コーパス MALINDO Conc (詳細は後述する)において、**paling baik** という形は 237 件であるのに対し、**terbaik** という形は 3300 件に上る。仮に両形式が自由に交替可能ならば大きな頻度の差は出ないはずである。しかし実際には偏りが存在するため、両者には何らかの差異があると言え

る。そこで、本稿は最上級形式と形容詞とのコロケーションに注目し、コーパスを用いた定量的調査を行う。結果として以下の点を主張することを目的とする。

- 接頭辞 **ter-**は対比的な意味を持つ形容詞のペアと結びつきやすい一方で、**paling** と形容詞の意味との関係は薄い

本稿の構成は以下の通りである。第2節では理論的背景について説明する。特に構文文法の考え方と、本研究で用いる階層的クラスター分析という手法を概観する。第3節は調査方法を説明し、第4節で調査結果を見る。続く第5節で接頭辞 **ter-**と **paling** の違いについて考察を行う。第6節はまとめと今後の課題である。

2. 理論的背景

2.1. 構文文法

コロケーションに焦点を当てるにあたり、構文文法の考え方を採用する。構文文法の代表的研究として Goldberg (1995) がある。この研究によれば、構文とは以下のように定義される。

C is a construction iff $_{\text{def}}C$ is a form-meaning pair $\langle F_i, S_i \rangle$ such that some aspect of F_i or some aspect of S_i is not strictly predicable from C's component parts or from other previously established construction. (Goldberg 1995: 4)

つまり構文とは「形式と意味の対」であり、かつ形態統語的な逸脱や、構成素から全体の意味や機能が予測出来ないことなど「不規則性」を持つものであると定義された。このような形態統語・意味的に不規則なフレーズは、一般的な文法規則によって組み上げることができず、話者はそのフレーズをまとまりとして記憶するほかない。そのため、上記の「形式の意味の対」とは言い換えればまとまったフレーズとして話者の中に蓄えられている知識のことである。例えば、英語の **by and large** 「全般的に」は、等位接続詞 **and** が前置詞 **by** と形容詞 **large** という異なる品詞を結んでいるという点で統語的に不規則である。そのため、**by and large** というフレーズは発話の度に規則によって作成されるわけではなく、まとまったフレーズ、つまり構文として知識の中に存在していると考えられる。また構文として認められるのは、**by and large** のようないわゆるイディオムだけでなく、項構造のレベルにまで拡張される。以下は **caused-motion construction** (使役移動構文) という構文の例である。使役移動構文とは[主語+動詞+目的語+斜格]という形式と、「目的語が動詞の表す働き掛けによって斜格項の示す経路を移動する」という意味の対で、具体的には(5)のような文を指す。

(5) They sneezed the tissue off the table.

(Goldberg 1995: 152)

(5)は日本語で言えば「彼らはくしゃみをしてテーブルからティッシュを飛ばした」という意味を持つ文である。注目すべきは動詞の使用法である。通常であれば動詞 *sneeze* は「くしゃみをする」という自動詞であり、*the tissue* を目的語にとっていることは不自然であると言える。そのため、(5)のような文は、句構造文法など規則によって文を組み上げることで成立したのではなく、構文というまとまりとして話者の知識の中に存在するものであると考えられる。

しかし、話者がまとまりとして認識しているフレーズが必ずしも上記のような不規則性を持つとは限らない。この点について Hilpert (2014) を基にして説明を行う。次の(6)は、形態統語・意味的に不規則な点がないにも関わらず、構文の一つであると言える。

(6) How has your day been? (Hilpert 2014: 13)

このフレーズは直訳では「あなたの一日はこれまでのところどうですか?」となるが、多くの場合相手の状況について答えを求める疑問文というよりも、会話を開始するための常套句として機能する。同様の意味を持つと思われる *Of what quality has your day been?*はそのような会話の開始を促す機能は持っておらず、英語話者は(6)の文と会話をスムーズに開始する機能とを結びつけていることが伺える。つまり(6)は形式・意味的な不規則性がないものの、話者の知識の中に形式と意味の対として存在する構文である。この場合、より厳密には形式が機能や使用場面と結びついていると捉えられている。さらに制約やどのような語・形態素と共起できるかというコロケーションの知識など、あるフレーズに関する情報全般も形式と結びついている情報である (Hilpert 2014: 18–22)。制約に関して、ここで”have long V-ed”構文を例にとる。

(7) a. I have long known your father.
b. *I have long read this book (Hilpert 2014: 19)

(7a)と(7b)は *have long V-ed* 「ずっと～している」というフレーズにおいて、*know* と *read* では容認度に差が生じることを示している。両動詞は共に同じ意味を表す *have V-ed NP for a long time* (*I have known your father for a long time. / I have read this book for a long time.*) というフレーズに生起することが可能であるため、上記の容認度の差異を意味に還元することは難しい。そのため、このような動詞の制約はフレーズそのものに結びついており、構文として話者が覚えているといえる。

次にコロケーションについて、Stefanowistch & Gries (2003) は(8)のような英語の *into-causative* 構文がある特定の動詞と結びつきやすいと主張する。

(8) He tricked me into employing him. (Stefanowistch & Gries 2003: 224)

具体的には例にあるように *trick* などの人を騙すことを含意する動詞、物理的な強制を伴うもの (*coerce, force*)、魅了・そそのかしを含意するもの (*entice, lure*) などがある。つまり、話者は *into-causative* についてこのような動詞群と共起しやすいという知識を保有していることになる。

以上本節では構文文法が、言語知識がどのような形で話者の中に蓄えられているかということに焦点を当てた理論であり、その言語知識とは形式とそこに紐づけられた情報全般が対になった「構文」という形であることを確認した。

本稿では形式に紐づけられた情報のうち、特にコロケーションに注目して考察を行う。これは前述のようにインドネシア語の最上級形式である *paling* と接頭辞 *ter-*には意味・機能の差が確認できないため、コロケーションに注目することで両者の特徴が見えてくると予測されるためである。つまり *paling* と接頭辞 *ter-*はそれぞれ共起しやすい形容詞に違いがあるのではないか、という仮説を立てる。本稿ではこの仮説を検証するにあたり Gries & Stefanowisch (2010) に基づく階層的クラスター分析を用いる。次節でこの手法を概観する。

2.2. 階層的クラスター分析

前節で触れた Stefanowisch & Gries (2003) は、*into-causative* 構文について *collostructional analysis* と呼ばれるカイ二乗検定を利用したフレーズと語の結びつき度合いを数値化する分析を行った後、その数値が高い動詞について意味分類を行い、前節で説明した結果を導いている。しかしこの動詞の意味分類は主観的であり、結果が判断者の内省に左右されるという欠点がある (Stefanowisch & Gries 2009: 948)。そこで、後続する研究である Gries & Stefanowisch (2010) は分類に際して可能な限り主観的判断を排除するために階層的クラスター分析を用いることを提案した。

階層的クラスター分析とは「(変数に対する反応が) 類似している個体どうしをクラスター (グループ) にまとめ上げていき、個体間の類似関係 (質的遠近関係) 視覚化する方法 (田畑 2004: 7)」である。例えば、結果として以下のような図 1 (デンドログラム) が得られる。これは前述の Gries & Stefanowisch (2010) における *into-causative* 構文の研究から引用したものである。この図から、*coerce* や *pressure*、*embarrass* や *shame* などがそれぞれ同じクラスターに属している、つまり類似性の高い語であることがわかる。

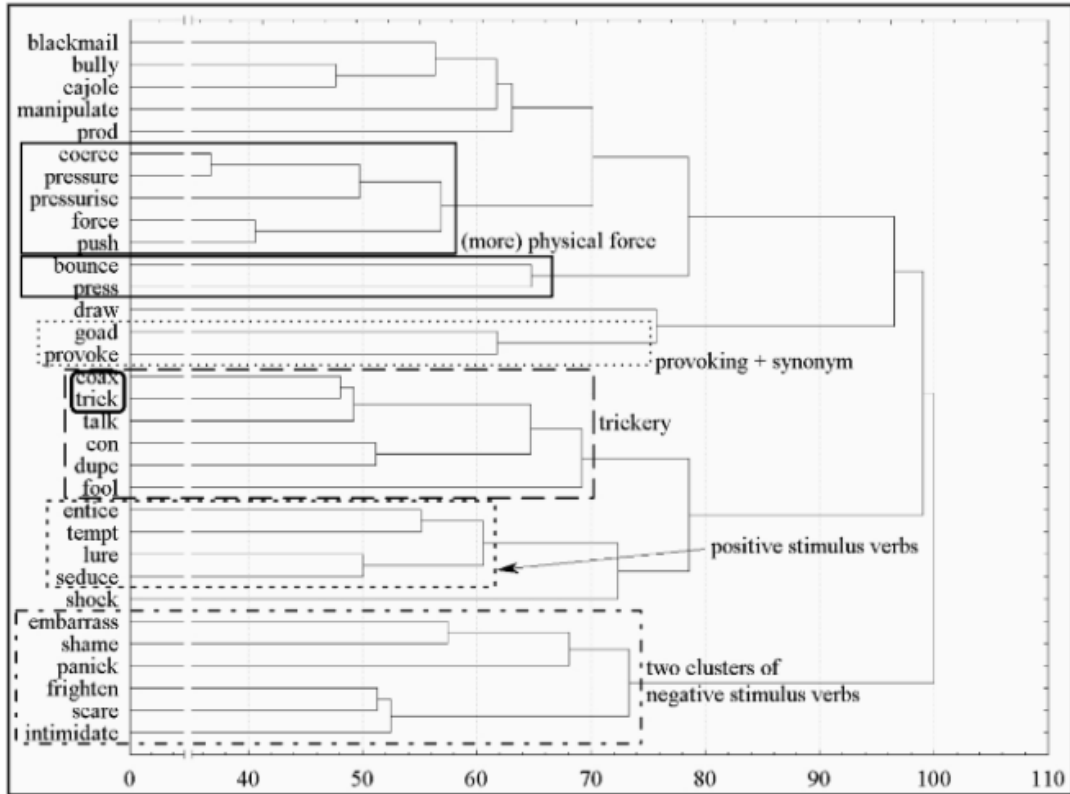
この結果は *into-causative* 構文に現れる動詞について、主観的に判断された意味の類似性が統計的計算によって支持されたことを示している。

今回のようにコーパスのテキストを用いた単語の類似度調査の場合、変数とは共起語を指し、共起語が似ている語をまとめ上げクラスターを作成することになる⁴。クラスター化の準備として、まず共起語をベクトル化する必要がある。今回は *word2vec* を用いてベクト

⁴ 前述の Gries & Stefanowisch (2010) の研究では、構文内のスロットに注目した *covarying collexeme* (Stefanowisch & Gries 2005) を基にするクラスター分析を行っており、単純な共起語調査より正確な結果が出ると述べている。しかし本稿はフレーズではなく語に焦点を置いた調査でありそのようなスロットが構文内に存在しないため、後述のように前後の共起語を基に分析を行う。

図 1 into-causative 構文における頻度上位動詞のデンドログラム

(Gries & Stefanowistch 2010: 84)

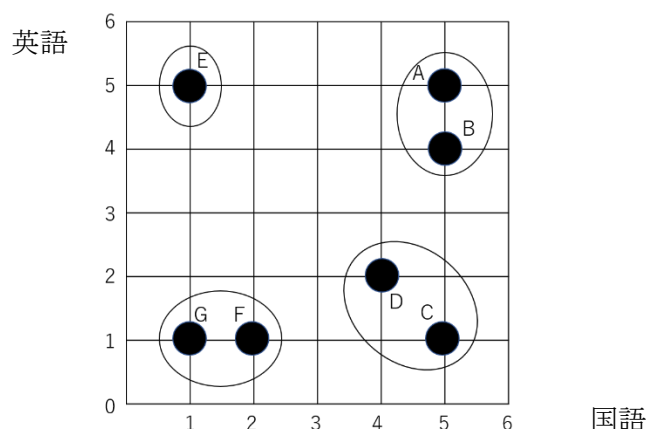


ル化を行う。word2vec とは Tomas Mikolov ら (Mikolov, Yih & Zweig 2013; Mikolov, Chen, Corrado & Dean 2013; Mikolov et al. 2013) によって提案された、ニューラルネットワークのオープンソース実装である (西尾 2014: iii)。これにより、各単語が数百次元程のベクトルで表され、単語の類似度を計算で扱うことができるようになる⁵。

こうして word2vec で得られたベクトルを基に、各個体間の距離 (非類似度) を求める。この測定にはいくつかの方法があるが、ユークリッド距離が最も基本的な手法とされる (石川・前田・山崎 2010: 169; 石井 2017: 140)。これは 2 次元で考えた場合、二点間の距離を直角三角形の斜辺に見立て、その長さを計算する手法である。例えば、図 2 のような分布を考えたとき、生徒 DC の距離は(9)のように計算できる。

⁵ 実際にベクトルを得る仕組みは複雑であり紙面の都合上説明することができないため、西尾 (2014: 35-50) を参照されたい。

図 2 生徒の国語と英語の成績の分布 (吉原・徳隆 (2014: 11) を基に筆者が作成)



$$(9) \quad \sqrt{(\text{国語の成績の差})^2 + (\text{英語の成績の差})^2} = \sqrt{(5-4)^2 + (2-1)^2} = 1.4142$$

個体間非類似度計算がすべての個体について行われると、その結果を基にクラスターが作成され、次にそのクラスター間の非類似度計算を行うことになる。個体間計算同様、クラスター間計算にも多くの手法が存在するが、様々な対象に広く適用可能な手法として Ward 法 (ウォード法) がある (石川・前田・山崎 2010: 172; Gries 2013: 347)。ウォード法は「クラスター内の各個体データからクラスターの重心までの距離に注目し、その距離の平方和ができるだけ増えないように次に融合するクラスターを探してゆく (石川・前田・山崎 2010: 172)」手法である。ここでも図 2 を例にとる。例えばクラスター AB とクラスター CD の非類似度を計算したいとき、その重心 (平均座標) は(10)のように計算される (cf. 吉原・徳隆 2014: 13)。

$$(10) \quad (x_{AVE}, y_{AVE}) = \left(\frac{x_A + x_B + x_C + x_D}{4}, \frac{y_A + y_B + y_C + y_D}{4} \right)$$

次に各点とこの重心との距離を計算し、前述のようにその和が増えないように融合するクラスターを探していくことになる。例えば図 2 においてクラスター AB とクラスター GF を融合しようとするれば、重心がずれると共に距離の和も増加する。そのため、クラスター AB はクラスター GF よりも先にクラスター CD と融合すると判断される。なお実際には当該のクラスター以外のすべてのクラスターに対し距離の評価を行ったうえで、その距離が小さいものから融合していくことになる (石川・前田・山崎 2010: 172)。

これを基に上の図 1 を解釈すると、*coerce* と *pressure* は最も左寄りの位置で結合していることがわかる。このことは他のどの組み合わせよりも、*coerce* と *pressure* の結びつきが強い、つまり似たような環境で現れることを示している。そして次に *pressurise* が結合してより大きなまとまりを、そこから *force* と *push* のまとまりが合流し、さらに大きいまとまりを形成するという仕組みで、クラスターが形成されていく。

以上本節では、調査に用いる階層的クラスター分析の概略を確認した。次節では実際の調査方法を述べる。

3. 調査方法

本研究では Leipzig Corpora Collection 内 (Goldhahn, Eckhart & Quasthoff 2012) のサブコーパスをデータとして使用した。具体的には `mixed_tufs4`、`web_tufs13`、`wikipedia_tufs14` であり、それぞれジャンルを問わないウェブサイト、ブログを中心としたウェブサイト、ウィキペディアの各 30 万文の引用から成る⁶。

調査にあたってはテキストファイルをダウンロードした後、それぞれ `paling` と接頭辞 `ter-` が付与される形容詞の種類の数を集めるため、抽出を行った。前者については `paling` を含む文を検索で抽出し、その後「最も」の意味にならないイディオム的なもの (`paling tidak` [most NEG] 「少なくとも」) や後続する品詞が形容詞でないもの (`paling saya suka-i` [most 1SG like-APPL] 「最も私が好きな」) を手作業で取り除いた。後者の接頭辞 `ter-` は `paling` に比べ工程が多くなる。これはテキストファイルでは形態素分析がなされていない都合上、“`ter-`”で検索を行った場合 `terminal` 「ターミナル」、`terus` 「〜し続ける」など対象外の含まれてしまい、そうした対象外の語を手作業で取り除く必要性が生じるためである。さらに接頭辞 `ter-` は最上級を表す以外にも様々な機能を有する。他動詞に付いた場合は主に受動態を作るほか、名詞を生成する (`ter-dakwa` [TER-indict] 「被告」) 機能を持つ。また自動詞に付いた場合は非意図の意味を付加する。さらに形容詞に付いた場合でも、`ter-utama` [TER-main] 「特に」という副詞になるなど、すでにイディオム化が進んでいるものもある。そのため、接頭辞 `ter-` を含む語を抽出した後、動詞的用法、形容詞用法 (最上級)、名詞的用法、イディオムの用法の 4 つのタグを付与し、分類を行った。本稿の調査対象は形容詞的用法のタグが付いたものになる。結果として、`paling` は 1286 種類、接頭辞 `ter-` は 107 種類の形容詞が得られた。表 1 及び表 2 は以上の工程のまとめとして、対象語・非対象語の `type size` (異なり語数) と `token size` (総語数) を表にしたものである。

表 1 最上級を形成する `paling` が付与された形容詞の総数

	形容詞	その他	計
type size	1286	17	1303
token size	10325	580	10905

表 2 最上級を形成する接頭辞 `ter-` が付与された形容詞の総数

	形容詞	その他の機能を持つ接頭辞 <code>ter-</code>	非接頭辞 <code>ter-</code>	計
type size	107	2142	1045	3294
token size	19207	245717	25752	290676

⁶ 総語数はそれぞれ 5,428,067 語、5,540,573 語、5,634,138 語である (Shiohara, Sakon & Nomoto 2019: 82)。

表 3 paling と共起する形容詞 (頻度順)

形容詞	出現数	形容詞	出現数
banyak 「多い」	649	mudah 「簡単な」	109
penting 「重要な」	366	efektif 「効果的な」	102
sering 「頻繁に」	340	awal 「最初の」	101
terkenal 「有名な」	299	menonjol 「卓越した」	92
besar 「大きい」	242	sederhana 「単純な」	90
baik 「良い」	237	benar 「正しい」	85
umum 「一般的な」	236	rendah 「低い」	84
tinggi 「高い」	181	atas 「上の」	76
populer 「人気のある」	175	sukses 「成功した」	76
sedikit 「少しの」	166	depan 「前の」	70
utama 「中心の」	145	cepat 「早い」	67
kuat 「強い」	126	dalam 「深い」	65
lama 「古い」	123	lambat 「遅れて」	64
berpengaruh 「影響力のある」	116	parah 「(被害などが) 深刻な」	63
tepat 「適切な」	113	indah 「きれいな」	63
dekat 「近い」	111		

表 4 接頭辞 ter- と共起する形容詞 (頻度順)

形容詞	出現数	形容詞	出現数	形容詞	出現数
akhir 「最後の」	5003	atas 「上の」	200	indah 「きれいな」	86
baik 「良い」	3318	kuat 「強い」	196	luas 「広い」	76
besar 「大きい」	2924	muda 「若い」	176	belakang 「後ろの」	64
tinggi 「高い」	1558	buruk 「悪い」	159	bawah 「下の」	62
baru 「新しい」	885	kini 「現代的な」	158	mahal 「高価な」	58
penting 「重要な」	676	cepat 「早い」	153	berat 「重い」	54
tua 「年長の」	622	kaya 「裕福な」	131	sukses 「成功した」	53
dekat 「近い」	498	panjang 「長い」	124	lama 「古い」	52
banyak 「多い」	447	depan 「前の」	110	jauh 「遠い」	52
kecil 「小さい」	273	dalam 「深い」	104	hebat 「偉大な」	52
rendah 「低い」	273	luar 「外の」	90		

このうち、本稿ではそれぞれ **paling** と接頭辞 **ter-**について、頻度順に上位 30 位⁷までを調査対象とする (表 3、表 4)。上位 30 位までとしたのは、こうしたコーパスを基にしたクラスター分析はある程度以上の頻度でなければ正確な結果を得ることができないためである (Gries & Stefanowistch 2010: 79)。

以上の語に対して、それぞれクラスター分析を行う。ベクトル化には前述の **word2vec** を用いた。設定は以下の通りである。

- **sg = 1** [学習のモデルとして **Skip-gram**⁸を使う]
- **size = 200** [ベクトルの次元は 200 次元とする]
- **min_count = 10** [10 回以上登場する語のみをカウントする]
- **window = 5** [前後 5 語を計測する]
- **iter = 3** [学習の繰り返し回数は 3 回]

個体間計算にはユークリッド距離、クラスター間計算には **Ward** 法を指定した。また以上の試行は、プログラミング言語 **Python (version 3.8.3)**を用いて行った。

4. 調査結果

本節では調査結果を便宜上接頭辞 **ter-**、**paling** の順にみていく。まず接頭辞 **ter-**と共起する形容詞を確認する。前節の調査の結果、以下のような図 3 を作成することが出来る。

図 3 からはいくつかの意味的なまとまりを見つけ出すことが出来る。比較的大きいものとしては、位置関係を表す語 (**belakang** 「後ろの」、**depan** 「前の」、**luar** 「外の」、**bawah** 「下の」、**atas** 「下の」及び **jauh** 「遠い」、**dekat** 「近い」、**rendah** 「低い」、**tinggi** 「高い」) や時代に関係する語 (**lama** 「古い」、**baru** 「新しい」、**kini** 「現代の」)、物理的な大きさを表す語 (**berat** 「重い」、**panjang** 「長い」、**luas** 「広い」)、価値に関する語 (**mahal** 「高価な」、**kaya** 「裕福な」) というまとまりが存在する。また、同じクラスターとしてまとめられているものの多くが対比的な意味を持つ語の対であるという点は特徴的である。

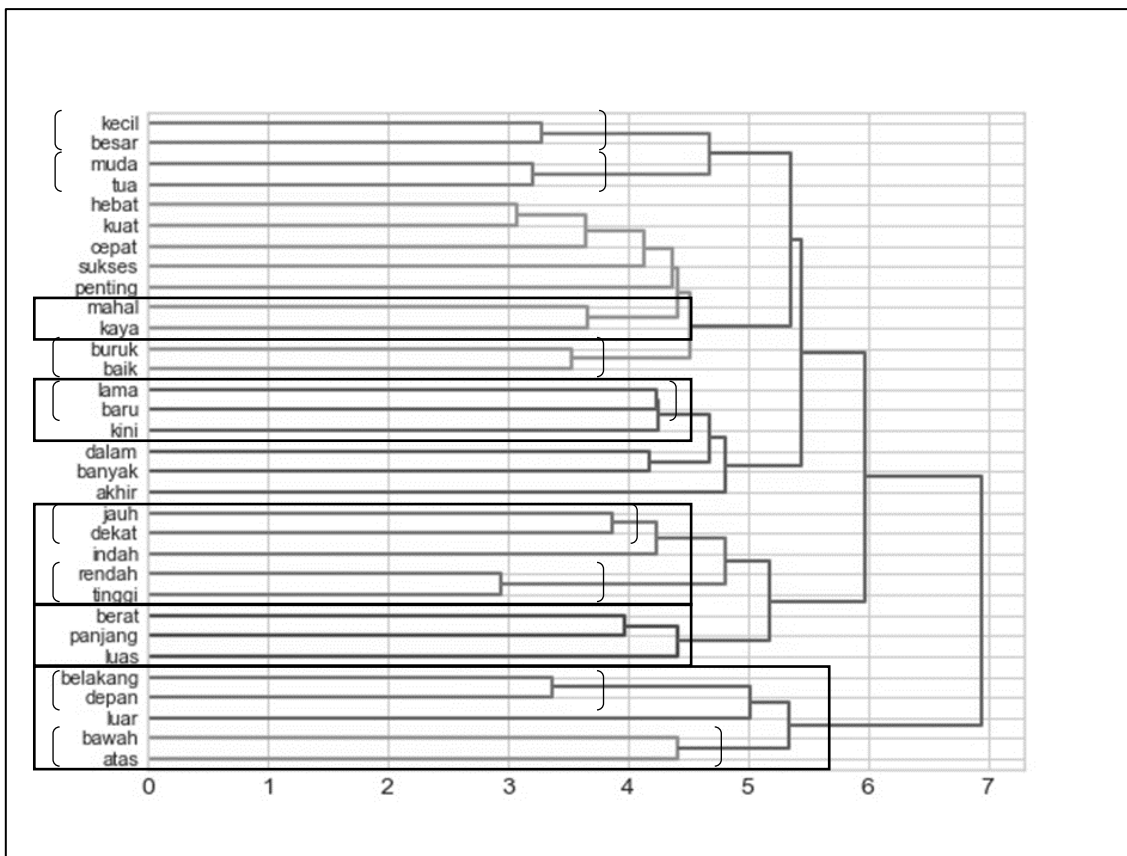
- 大きさ: **kecil** 「小さい」 / **besar** 「大きい」
- 年齢: **muda** 「若い」 / **tua** 「年長の」
- 善し悪し: **buruk** 「悪い」 / **baik** 「良い」
- 年代: **lama** 「古い」 / **baru** 「新しい」

⁷ 第 30 位の形容詞が同数で複数並んでいるため、**paling** については 31 語、接頭辞 **ter-**については 32 語が調査対象となっている。

⁸ **Skip-gram** については以下の説明を参照: The skip-gram method attempts to learn the context words of a given target word and to “maximize classification of a word based on another word in the same sentence” (Mikolov, Chen, Corrado & Dean 2013: 4). The other training algorithm of word2vec is continuous bag of words (CBOW), which attempts to learn the target word given its context words (Rajeg, Denistia & Musgrave 2019: 47).

- 距離: jauh 「遠い」 / dekat 「近い」
- 高さ: rendah 「低い」 / tinggi 「高い」
- 前後: belakang 「後ろの」 / depan 「前の」
- 上下: bawah 「下の」 / atas 「上の」

図3 接頭辞 ter-と共起しやすい形容詞のデンドログラム



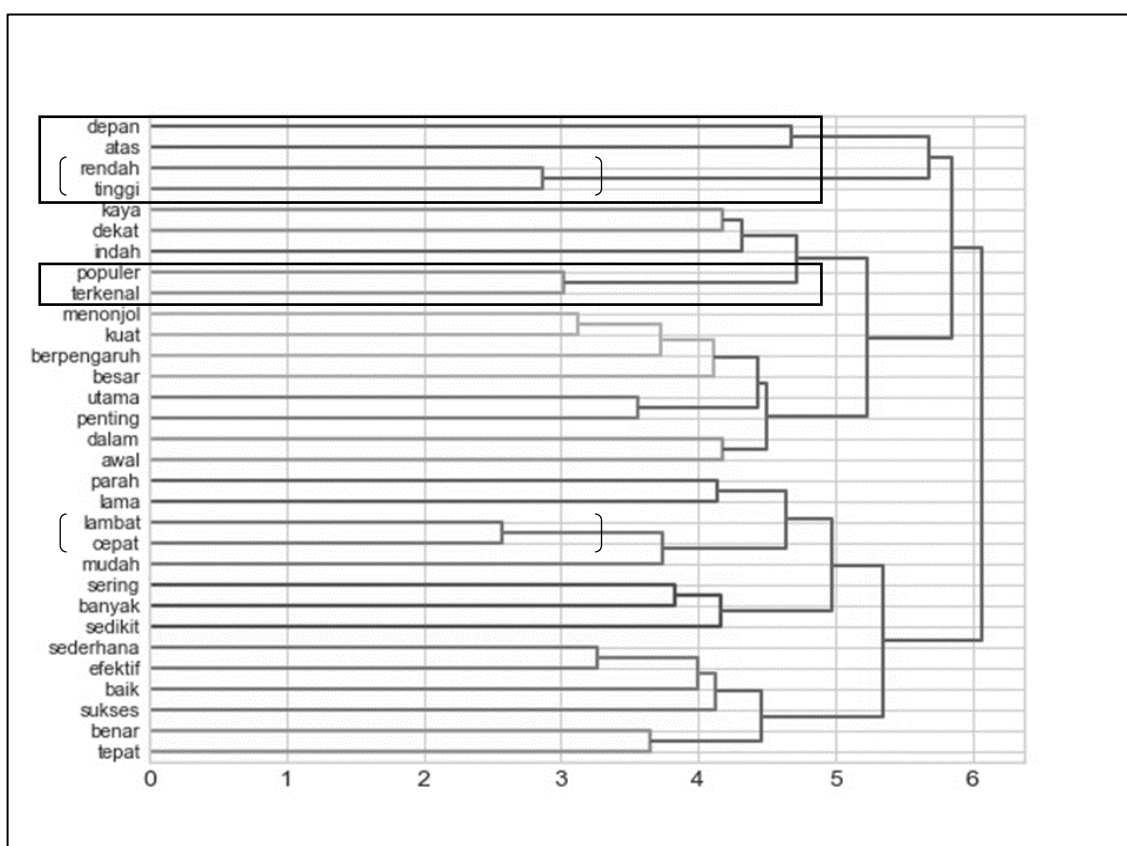
一方で paling のデンドログラムは以下の図4のようになる。

図4では接頭辞 ter-と同じように位置関係を表す語 (depan 「前の」、atas 「上の」、rendah 「低い」、tinggi 「高い」、人気を表す語 (populer 「人気のある」、terkenal 「有名な」といったクラスターを見つけ出すことが出来る。しかし接頭辞 ter-の場合とは違い、クラスターとしてまとめられている語同士の繋がりは薄いと言える。一部、意味的対をなす組み合わせ (lambat 「遅い」と cepat 「早い」、rendah 「低い」と tinggi 「高い」) は見受けられるが、kaya 「裕福な」と dekat 「近い」、lama 「遅い」と parah 「(被害などが) 深刻な」が一つのクラスターでまとめられてしまっている。

以上を基に接頭辞 ter-と paling を比較すると次のようにまとめられる。

- 接頭辞 **ter-**と **paling** と共起する形容詞について、接頭辞 **ter-**にはいくつかの意味のまとまりが観察できるが、**paling** はまとまりの数が限られている。
- 接頭辞 **ter-**はクラスターでまとめられている語が対比的意味を持つ組み合わせであることが多いのに対し、**paling** では必ずしもそうではない。

図 4 **paling** と共起しやすい形容詞のデンドログラム



5. 考察

以下ではこの差をどのように解釈すべきかについて考察する。まず接頭辞 **ter-**について考える。接頭辞 **ter-**では多くのクラスターがあるものの、それぞれのクラスター間の意味的つながりは少ない。例えば上記の結果から「接頭辞 **ter-**は時代に関する語や位置に関する語と共起しやすい」と言うことはできるが、この説明では非常にアドホックな説明となってしまう、接頭辞 **ter-**と形容詞の関係の全体像を掴むことは難しい。そこで、接頭辞 **ter-**においてクラスターでまとめられている対の多くが対比的意味を持つことを合わせて考える。位置を表す語のクラスターは対比的意味を持つ形容詞の対で形成されている。その他にもすでに確認したように、大きさや年齢などの意味を持つ形容詞の対を確認することができる。また、物理的な大きさを表す語や価値を表す語については、その対義語を想定することができる (*ringan* 「軽い」、*pendek* 「短い」、*sempit* 「狭い」及び *murah* 「安い」、*miskin* 「貧乏な」)。これらの語は頻度順の上位 30 位として出現してはいないものの、いずれも **paling** の

場合比べると比較的高頻度で表れており、接頭辞 **ter-**と共起しやすいと言える⁹。以上より、接頭辞 **ter-**と形容詞との関係について次のようにまとめることができる。

- 接頭辞 **ter-**は対比的な意味を持つ形容詞のペアと結びつきやすい

一方で **paling** は接頭辞 **ter-**にみられたような意味的なクラスターを作ることは難しく、また対比的意味を持つ対のクラスターも少ないことを見た。そのため、**paling** と形容詞の関係について以下のように結論付ける。

- **paling** と形容詞の意味との関係は薄い

本稿では、こうした接頭辞 **ter-**と **paling** の違いは共起する形容詞の分布の仕方によるものであると考えられる。言語習得研究において、ある構文の創出には **skewed input** が有効だと考えられている (Boyd & Goldberg 2009: 427; Hilpert 2014: 171)。**skewed input** とは、ある構文 **X** を習得しようとする際にその構文に入りうる動詞のバリエーションが5つあるとした場合、その5つの動詞を2回ずつ計10回提示するよりも、ある動詞が6回ではかの動詞は1回ずつというように、頻度に偏りを持たせたほうが構文 **X** の習得が容易になる、というものである。これを踏まえて接頭辞 **ter-**と **paling** を比べてみると、接頭辞 **ter-**の方では頻度上位語が全体に占める割合が大きい。**paling** では上位5位が占める割合が2割であるのに対し、接頭辞 **ter-**では7割に上る。つまり、接頭辞 **ter-**は頻度の偏りがより大きいといえる。そのため **paling** は形容詞との意味との関係が薄い一方で、接頭辞 **ter-**は **skewed input** によって構文としての定着が進み、共起する形容詞の傾向が固定化していると考えられる。

ここで対比的意味を持つ形容詞の対がいわゆる基本的な語であるために接頭辞 **ter-**にその分だけ多く表れているだけという反論が考えられる。そのため本来であればカイ二乗検定などの統計的処理を行って、接頭辞 **ter-**と各共起語が有意に結びついていることを示す必要がある。この考えられる反論については今後の課題とし、詳しくは次節で考える。しかし、もし基本的な語であるために接頭辞 **ter-**と共起しやすいのであれば、**paling** の方でも多く観察されるべきである。しかし実際にはそうではなく、接頭辞 **ter-**と **paling** の共起語の重複は半数に留まっている。その点で本稿の考察には一定の妥当性があると言える。

6. 結論と今後の課題

本稿では接頭辞 **ter-**は対比的な意味を持つ形容詞のペアと結びつきやすい一方で、**paling** と形容詞の意味との関係は薄いことを主張した。この主張は、階層的クラスター分析という統計手法を用いた調査に基づくものである。この手法について、主観的な判断でも似た結論を導くことは可能であるが、第2節で述べたように客観的な方法によってその判断を裏付

⁹ 具体的には **ringan** が51位、**pendak** が34位、**murah** が35位、**misikin** が39位である。ただし **sempit** は今回の調査では一件しか現れていない。

けることが必要であり、その点で本研究は意義のあるものであるということが出来る。

今後の問題として二点あげられる。第一に、本稿では接頭辞 *ter-* 及び *paling* と結びつきやすい形容詞を調査するために粗頻度を基準とした。しかしある形式 A と結びつきやすい語を決定する際に、粗頻度を用いることへの議論が存在する。例えば、Gries, Hampe & Schönefeld (2005) は *as-predicate* 文 (He regarded him as stupid.) について、粗頻度で見れば *see* が最も多く構文内に現れる動詞であるものの、このことが必ずしも *see* と *as-predicate* 構文が結びついていることを示すわけではないことを指摘した。これは *see* が様々な状況において頻出する語であり、その分 *as-predicate* 構文にもほかの語と比べて多く表れているだけである可能性があるためである。この可能性を定量的に図る手法として *collexeme analysis* がある (Stefanowisch & Gries 2003, 2009)。これは以下のような 2×2 の表を利用して、カイ二乗検定やフィッシャー検定といった統計的な検定によって処理を行うものである。

表 5 *collexeme analysis* に用いる分布表

	構文 A	非構文 A	合計
語 X	a	b	a+b =語 X の総数
非語 X	c	d	c+d
合計	a+c =構文 A の総数	b+d	a+b+c+d

結果は *p* 値によって算出され、この数値が 0.05 以下であれば通常ある構文 A とある語 X は結びつきが強いと判断される。これを *as-predicate* 文に当てはまると粗頻度では最も結びつきが強いとされていた *see* は第三位となり、代わりに *regard* が最も結びつきの強い動詞となる。この結果は母語話者による文産出実験 (Gries, Hampe & Schönefeld 2005: 654–663) によっても支持され、統計的手法が粗頻度よりも話者の知識を正確に反映したものであると結論付けられている。しかし、別の実験では必ずしも統計的手法と粗頻度の差が優位に現れるわけではなく (Gries, Hampe & Schönefeld 2010: 71)、また統計的手法は余剰的であると反論する研究も存在する (cf. Kilgarriff 2005)。そのため、本研究でも粗頻度を基にした結果と統計的手法によって得られた結果を母語話者の内省を測る実験によって比較する必要がある。この比較は今後の課題とするが、それ以前に統計的手法を行うために解決しなければならない課題がある。それは品詞分類の整備である。例えば *terutama* という語は「特に」という副詞として用いられることが多いイディオムの表現として捉えられることが多い一方で、「最も中心的な」という形容詞的用法も存在する。本来であれば後者の形容詞的用法は調査対象に含めるべきである。しかし今回の調査では前者の副詞的用法が主要な用法であり、すべてを対象外としても調査結果に大きな変化は出ないと判断し、対象から除外した。しかし、より正確な結果を出すためには *terutama* をはじめとする多義語の分類を手作業で行う必要がある。

二つ目の問題は、使用頻度が近い語に対して使い分けに関する説明を与える必要があるということである。英語の二重目的語構文と *to-dative* において、比較的自由に交代が可能である動詞（頻度がどちらかの形式に偏らない動詞）、については事態の捉え方によって使い分けが行われているという指摘がある（Gries & Stefanowistch 2004: 107）。そのため本研究のような形容詞を対象とした調査の場合はその被修飾語の性質を調べることで、使い分けの基準が明らかになる可能性がある。例えば *berat* 「重い」は接頭辞 *ter-* で 53 件、*paling* で 44 件と比較的どちらにおいても頻度が高い形容詞である。そこで、その被修飾語をまとめると以下ようになる。

表 6 *berat* 「重い」の主な被修飾語

<i>terberat</i> の被修飾語	出現数	<i>paling berat</i> の被修飾語	出現数
<i>hukuman</i> 「罰」	6	<i>beban</i> 「重荷」	3
<i>tantangan</i> 「挑戦」	5	<i>inti</i> 「核」	2
<i>pukulan</i> 「打撃」	3	<i>sindrom</i> 「症候群」	2
<i>saingan</i> 「競争」	3	<i>tugas</i> 「仕事」	2

表 6 からは *terberat* は相手との競争に関する語が並ぶ一方、*paling berat* では共通の特徴は見出しにくい。語の重なりがほぼないことを踏まえると、接頭辞 *ter-* と *paling* である程度の使い分けはあるとあって良いだろう。しかし今回のコーパス調査ではこうした傾向がすべての形容詞にみられるわけではなく、物理的・認知的な使い分けなど語横断的な共通の性質も捉えにくいいため、調査対象を拡張するなど質的調査を継続して行う必要がある。

略号一覧

1: first person, APPL: applicative, NEG: negation, PN: personal name, REL: relative, SG: singular, TER: prefix “ter”

参照文献

- Alwi, Hasan, Soenjono Dardjowidjojo, Hans Lapoliwa, dan Anton M. Moeliono. (1998). *Tata Bahasa Bahasa Indonesia. Edisi Ketiga*, Jakarta: Balai Pustaka.
- Boyd, Jeremy K. & Adele E. Goldberg. (2009). “Input Effects Within a Constructionist Framework.” *The Modern Language Journal*. 93-3. 418–429.
- Goldberg, Adele. E. (1995). *Constructions: A construction grammar approach to argument structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- Goldhahn, Dirk. & Thomas, Eckart. & Uwe, Quasthoff. (2012). “Building large monolingual dictionaries at the Leipzig Corpora Collection: From 100 to 200 languages.” *Proceedings of the Eighth International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC’12)*. 759–765.
- Gries, Stefan Th. (2013). *Statistics for linguistics with R: A practical introduction*. Berlin & New York: Mouton de Gruyter.
- Gries, Stefan Th, and Anatol Stefanowitsch. (2004). “Extending Collostructional Analysis A Corpus-Based Perspective on `alternations’”. *International Journal of Corpus Linguistics* 9-1. 97-129.
- Gries, Stefan Th., & Anatol, Stefanowitsch. (2010). “Cluster analysis and the identification of collexeme classes.” *Empirical and experimental methods in cognitive/functional research*, 73–90.
- Gries, Stefan Th., Beate Hampe, & Doris Schönefeld. (2005). “Converging Evidence: Bringing Together Experimental and Corpus Data on the Association of Verbs and Constructions.” *Cognitive Linguistics* 16-4. 635–76.
- Gries, Stefan Th., Beate Hampe, & Doris Schönefeld. (2010). “Converging Evidence II: More on the Association of Verbs and Constructions.” In Sally Rice and John Newman (eds.). *Empirical and Experimental Methods in Cognitive/Functional Research*. 59–72.
- Hilpert, Martin. (2014). *Construction Grammar and Its Application to English*. Edinburgh: Edinburgh University Press.
- 石井基広 (2017) 『Rによるテキストマイニング入門』第2版、東京: 森北出版株式会社.
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠 (編) (2010) 『言語研究のための統計入門』東京: くろしお出版.
- Kilgarriff, Adam. (2005). “Language Is Never, Ever, Ever, Random.” *Corpus Linguistics and Linguistic Theory* 1-2. 263–75.
- Mikolov, Tomáš, Wen-tau Yih, & Geoffrey Zweig. (2013). “Linguistic regularities in continuous space word representations.” In *Proceedings of the 2013 conference of the north american chapter of the association for computational linguistics: Human language technologies*. 746–751.

- Mikolov, Tomáš, Kai Chen, Greg Corrado, & Jeffrey Dean. (2013). "Efficient estimation of word representations in vector space." arXiv preprint arXiv:1301.3781.
- Mikolov, Tomáš, Ilya Sutskever, Kai Chen, Greg Corrado, & Jeffrey Dean. (2013). "Distributed representations of words and phrases and their compositionality." arXiv preprint arXiv:1310.4546.
- 西尾泰和 (2014) 『word2vec による自然言語処理』東京: オライリー・ジャパン.
- Rajeg, Gede Primahadi Wijaya, Karlina Denistia, & Simon Musgrave. (2019). "Vector Space Models and the usage patterns of Indonesian denominal Verbs: A case study of verbs with *meN-*, *meN/-kan*, and *meN/-i* affixes." *NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia* 67. 35–76.
- 佐々木重次 (1982) 「インドネシア語における態の問題」『講座日本語学 10 外国語との対照 I』292–304. 東京: 明治書院.
- Shiohara, Asako., Yuta, Sakon. & Hiroki, Nomoto. (2019). "Discourse functions of the two non-active voices in Indonesian: Based on the web corpus data in MALINDO Conc." *NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia* 67. 67–101.
- Sneddon James Neil, K Alexander Adelaar, Dwi N. Djenaar, and Michael Ewing (2010). *Indonesian; A comprehensive grammar. 2nd edition*. London: Routledge.
- Stefanowitsch, Anatol, and Stefan Th Gries. (2003). "Collostructions: Investigating the interaction of words and constructions." *International Journal of Corpus Linguistics*. 8-2. 209–243.
- Stefanowitsch, Anatol, and Stefan Th Gries. (2005). "Covarying collexemes." *Corpus Linguistics and Linguistic Theory*. 1-1. 1–43.
- Stefanowitsch, Anatol, and Stefan Th Gries. (2009). "Corpora and Grammar." In Anke Lüdeling and Merja Kytö (eds.). *Corpus Linguistics: An International Handbook Vol. 2*. 933–951. Berlin & New York: Mouton de Gruyter.
- 田畑智司 (2004) 「コーパス言語学のための多変量解析入門」英語コーパス学会第 24 回大会ワークショップ発表資料.
- Tadmor, Uri. (2008). "Malay and Indonesian". In Bernard, Comrie (ed.). *The World's Major Languages 2nd edition*. London: Routledge. 791–818.
- 吉原一紘・徳高平蔵 (2014) 「クラスター分析の概要」 *Journal of Surface Analysis*. 21-1. 10–17.

ジャワ語における呼びかけ語と人称代名詞との
微妙な関係についての試論
Considering addressing terms, first person pronouns,
and third person pronouns in Javanese

三宅良美 (秋田大学)
MIYAKE Yoshimi (Akita University)

Abstract

Javanese language is the language of Indonesia's largest ethnic group. This paper will introduce current addressing terms in Javanese, which is well known for being a class-oriented language, based on my interviews to people of Central Java and movies of which the dialogues are conducted in Javanese. I will argue that Javanese addressing terms are based on the teknonymy, a way of addressing the addressees from the youngest member of the family's point of view. This teknonymical addressing system has expanded, crossing the classes as well as the kin relationship. I will also argue that especially the addressing forms, i.e. *bapak* and *ibu* for parents as well as those for older siblings, i.e. *mas* and *mbak*, have prevailed. The addressing forms originally for parents and older siblings are polite addressing forms, so they satisfy the required linguistic politeness in the Javanese context. Furthermore, based on my study on film dialogues, I point out a distinctive use of addressing terms as substitutes for the first person pronouns, such as *emak* 'mom' in front of her own son, and *mas Hapid* 'big brother Hapid' in front of his girlfriend, Lestari, suggesting a co-relationship between addressing forms and first, second, and third person pronouns.

イントロダクション

「呼びかけ語/呼称」はインターロキューター同士が話しかけるときに、あるいは呼ぶときにつかう言葉であり、「名称」と同じではない。「名称」は名詞として文章構造に含まれるのに対し、呼びかけ語は、感嘆詞や *discourse particle* のように、文章の構造の外にあるとされる。インドネシア語文(1)の *Bapak/Ibu* は呼びかけ語である。日本語やインドネシア語、ジャワ語、といったアジアのいくつかの言語においてこの呼びかけ語が二人称の代替詞として使われることが齋藤、野元により指摘された(齋藤、野元 2019)。例えば、(2) は二人称として使われている。

- (1) Bapak/Ibu, sudah makan siang?
Dad/Mom ADD already eat noon
'Dad/Ibu, did you have lunch?'
'お父さん/お母さん、昼ご飯食べた?'

- (2) Bapak/Ibu sudah makan siang, ya?
 Dad/mom already eat lunch, TAG
 ‘Dad/Mom have had lunch, haven’t you?’
 ‘お父さん/お母さんは昼ご飯食べたよね。’

呼びかけ語にはいくつかのカテゴリーの語彙がつかわれる。内海はマレー語の呼びかけ語の基盤として次のカテゴリーを紹介している(Utsumi 2020)。

1. 個人名
2. 親族名
3. 職業名や学歴の称号
4. あだ名
5. 貴族の称号

呼びかけ語は、文章の構造から独立して、呼びかけのみで独立するため、この変異の根底にあるのは、社会、文化的要因だと考えるのが適切である。もっともマレー語は、ジャワ語のような階級言語ではない。それでは、敬語体系、ポライトネス、階級概念がすでに反映している階級言語であるジャワ語の場合はどうか。ジャワ語の場合、呼びかけ語と言語レベルとの間に相関関係があるのではないかと考えられる。

ジャワ語においては、このうち親族用語がもっとも重要である。とりわけ、一世代上および、同世代の *seniority* を表す親族呼称が上記の 1 – 5 をクロスし、貴族の称号や高学歴、その他のカテゴリーよりも優先される言語状況を、インタビューと近年のジャワ語の映画の会話研究に基づいて報告するものである。映画に現れる二人の会話の中で、どのような呼びかけ語がつかわれ、それぞれが人称代名詞の役割をもつかどうか、また、さらにこの呼びかけ語がスピーチ・レベルと関係があるのか考察する。

1. Data

本論に使われるデータは、Jogjakarta に住まう友人 Mbak H. (Raden Adjeng の称号を持つ) の家族 (3 世代)、その友人たち、ジョグジャカルタに住むジャーナリストとその家族(3 世代)、友人、また、中部ジャワ(ボロブドゥール寺院近隣の町、村落)に住まう人々、さらに、日本に留学している、ジャワ語を母語とする大学院生 Mbak N へのインタビューと、次の映画で観察された会話に基づいている。

表 1 データ 映画題名

Title	タイトル日本語訳	Year
Calon Lurah	村長候補	2020
Sowan	訪問	2014
Natalan	クリスマス	2014
Singsot	口笛	2016
Menuk	鳥	2020

本論は、例としては、*Calon Lurah* のみを使用した。他の映画が 30 分以内の、テーマが明白な短編映画であるのに対し、*Calon Lurah* は 2 時間以上におよぶ長編のネット映画シリーズである。中部ジャワと東ジャワの中間に位置する村落がドラマの舞台になっている。主人公および物語のナレーターは、**Hapid** という青年である。村の高校を卒業し、亡くなった父が残した土地を耕して農業を営んでいる。そこに現れたのが、高校まで同級生だった **Jayadi** という元村長、金持ちの息子である。それが **Malang** の大学で S 3 ‘博士号’ をとって村に凱旋、**Hapid** の恋人 **Lestari** に惚れこむ。**Lestari** に公式に求婚したいが、お金のない善良な青年 **Hapid** に誰もが共感するが、それができないことに潰け込む **Jayadi** の行動は笑いを誘う。

映画の中の会話にみられる、呼びかけ語と人称代名詞の代替が起こるコンテキスト、さらに、スピーチ・レベルについて考察した。親と子、夫婦、恋人間、友人間、知らないひととの道端の会話がこの研究考察の対象となった。

2. 呼びかけ語

2.1. Teknonymy

呼びかけ語の研究は、親族用語と呼称の研究、プラグマティクスにみられるポライトネス研究などの研究対象であった。

Clifford Geertz(1976)と Hildred Geertz(1961) はそれぞれ *The Religion of Java* と *The Javanese family* においてジャワの親族関係について触れ、親族間の address terms は強く teknonymical であると報告している。Teknonymical な呼びかけの基本は、呼びかけ語がその親族内の最も年齢の小さな子供からの視点に基づくというものである。たとえば、ジョグジャカルタのジャーナリスト Argo Pramata Nugroho は、妻から *Mas Argo* と呼ばれ、妻を *Dana* と名前で呼んでいた。長男が生まれると、Argo は *Pak'e* ‘XX のお父さん’ と妻に呼ばれ、妻も *imok*¹⁰ ‘おかあさん’ と呼ばれるようになった。3 人の息子たちは、このまま自分の父親を *Pak'e*、母親を *Imok* と呼ぶ。次に子供が生まれると最初の子は、*Mas +XX* ‘XX 兄さん’ と呼ばれていくために、呼びかけ語は、一度親になると孫が生まれるまで、家庭内でその呼称が続くことになり、固定する。孫が生まれると、「おじいさん、おばあさん」と呼称は変わる。ほとんどすべての自然言語において、家族内の *technonymy* は観察される。日本語話者の視点からするとごく普通のことと感じられるが、ジャワ語の会話ではこれが第三人称として使われる場合、所有格が付き、*bapakmu* ‘あなたのお父さん’、*ibumu* ‘あなたのお母さん’、と子供に話しかけることが多い。たとえば、*Sowan* 「訪問」において、(3) の話者、母親が息子に対し、*bapakmu* ‘あなたのお父さん’ と父親(話者にとっては夫)を言及している。

¹⁰ *imok* ‘お母さん’ というのは、この家族固有の呼称である。ジャワ語の *emak*, *ibu*, *mbok* を混合させたような印象だが、実は元インドネシア大統領の *Yudoyono* がインタビューで、妻のことを、子供とともに *imok* と呼んでいるというのを聞いて驚いた、とその偶然性を楽しんでいるようだった。

- (3) Bapakmu ora kerso
 Father-2 not want.
 ‘Your father does not want to’.
 おとうさんはいやなんだよ。

上記の *Pak'e* という呼称も長男が生まれたとき、子供が生まれるまで妻から *mas* と呼ばれていた男性は *pak'e* ——(最初は、長男)のお父さん'と妻に呼ばれるようになり、こんどは子供たちもまた、母親が呼ぶ *Pak'e* に従い、自分の父親のことを *Pak'e* と呼ぶこととなった。

Bapak または Ibu+職業名は、prestige が相対的に高い職業名に多かったがこんどはそうとは限らない。 *Pak becak* 'ベチャ引き' や *Pak sopir* '運転手'さんと呼ぶのは普通である。ちなみに *Ojeg* 'オートバイ・タクシー'の場合は、*mas* 'お兄さん' を先につける。また、女性でもオートバイ・タクシーには *mbak ojeg* 'オートバイタクシーのお姉さん' という。

3. 呼びかけ語と言語レベル

ジャワ語は階級言語であり、相対する話者の縦関係が言語使用に関係するといわれる。ジャワ語の階級による分類は大きく分けて三つのパラダイム群あるいはスピーチ・レベル、Ngoko, Madya, Krama である。呼びかけ語は interlocutors 間の呼びかけであるから、それぞれのレベル、Ngoko, Madya, Krama により異なるというのが仮定的原型であるが、インタビューや映画のダイアログにみられる限り太字にした部分は、Ngoko や Krama に関係なく広範に使われるようになったものである。

表 2 親族呼称に基づく呼びかけ語

Ngoko	Krama	Krama Inggil
simbah/embah/mbah 'grandpa/ma'	eyang kakung/estri 'おじいさん、おばあさん'	rama
bapak	bapak 'お父さん',	Rama agung X
pakdhe '叔父さん',	pakdhe '叔父さん'	Rama Bin XX
paklik '叔父さん',	paklik '叔父さん'	
emak 'お母さん',	ibu 'お母さん',	
mbok 'お母さん'		
budhe 'aunt' 叔母さん (エゴの父か母の姉)	budhe '伯母さん',	
bulik 'aunt' 伯母さん (エゴの父か母の妹)	bulik '小母さん'	ibu agung '叔母さん'

(tante '小母さん') kangmas/kang/mas 'お兄さん' mbakyu/mbak 'お姉さん' dék, dhék, dhik, dhi '弟、妹、妻' tholé/lé '息子'	kangmas/mas 'お兄さん' mbakyu/mbak 'お姉さん' adhimas '弟' diajeng, adijeng/dajeng/jeng '妹' anak/nak '子供'	
--	--	--

ジャワ語の親族名称、呼称については、年齢と生まれる順番が重要である。父親または母親の兄・姉か弟妹かで名称および呼称は異なる。オランダ語から借用したインドネシア語の *tante* ‘おばさん’ は、ジャワでは若年層から親の世代ほどの女性への呼称である。私は、長年付き合いのある上記の Mbak H. の子供たち、甥、姪たちからは *tante* (オランダ語より) と呼ばれる。

次に、職業、宗教職に基づき、*bapak/ibu* コミュニケーション、サービスが伴う職業名に付けられそれぞれ呼びかけ語となる。

表 3 *bapak, ibu* を付加して呼びかけ語になる語

職業名	dokter ‘~先生’ professor ‘~教授’, guru ‘~先生’, dosen ‘~先生’ dekan ‘学部長先生’ , Presiden ‘大統領’ Lurah 村長、Bupati 郡長、Gubernur 知事 polisi おまわりさん, sopir 運転手さん, becak ベチャ引きやさん majelis ‘車掌’
聖職者名	(kyai ‘イスラム師’) Pastor ‘牧師’, Pendeta ‘仏教の師’

kyai は、性別が決まっている。呼びかけ語としては、kyai の前に *pak* をつける。pastor, pendeta は性別により *ibu/bapak pastor, ibu/bapak pendeta* と呼ぶ。牧師は親族呼称から発していないので **Bapak punika pastor*. ‘この方は牧師さんです’。と言えるが、**Bapak punika rama*. とは言わない。zuster, broder, rama はすでにジェンダーが明白な呼びかけ語であるため *ibu, bapak* はつけない。

呼びかけ語は自由に増加する可能性をもつ。外国語の呼び名などはその例である。今日、

名のある美術家、音楽家、ジャーナリストなどは、*maestro* と呼ばれ、性別によって *bapak maestro*, *ibu maestro* と呼ばれる。

Lakoff G. & M. Johnson 1985 は、親族用語が、心理的、精神的なつながりや宗教の信者たちのつながりのメタファーとして使われることを指摘する。宗教用語では、*father* は神、神父を、*mother* は聖母マリア、*Mother Theresa* のような聖女を、教会に仕える男性は *brother*、尼を *sister* とよび、また、精神的なつながりの対象として、アメリカ黒人同士を *brother/sister* と呼び合う (Lakoff G. & M. Johnson 1980)。日本語の任侠の世界でも、姐さん、親分、兄貴、弟分と呼び合ってきた。ジャワのカトリック教会では神父は *rama* ‘お父さま’ とよばれ、それぞれの神父は個人名に加えて *Rama XX* と呼ばれる¹¹。AAVE の *Bro* はジャワにも入り、*Calon Lurah* でも使われている。ジョグジャカルタ付近では男性アーティストたちがお互いに *bro* とよびあうのを聞いたことがある。

Lestari はスピーチ・レベルの軸で呼びかけ語を考えた (Lestari 2020)。内海 2020 はマレー語の Address terms を、Formal, Intermediate, Informal の三つのドメインに分け、それぞれ、Formal=+respectful, +public, -intimate, Intermediate =-respectful, +public, +/-intimate, Informal=-respectful, -public, +intimate として、それぞれのカテゴリーに沿った Address term を説明した。この呼称はまた、親族用語、仕事や社会階級、宗教上の称号、ジェンダー、個人名のカテゴリーに分けて論じられている。

軍、貴族、学生の称号に *bapak*, *ibu* は付加しない。なお、貴族の称号は高位ほど長くなる。例えば、Raden Mas, Raden Adjeng はそれぞれ王の直系から 5 世代続く称号であるが 6 世代目からは Raden のみとなる。これらは称号であり、呼びかけ語にはならない。

3.1. 称号とジェンダーの問題

3.1.1. 対称性

ジェンダーによる非対称性と seniority の優位性について特筆したい。次の用語はジェンダーの視点から対称的である。さらに個人名をつけて Bu Guru XX, Bu Dokter XX, Bu Dekan XXi, Bu MaestroXX などと呼ぶ。

ibu guru *ibu dokter* *ibu professor* *ibu maestro*

3.1.2. 非対称性

Bu Bupati は Pak Bupati の妻、Bu Presiden は社長夫人であり、Ibu Negara は大統領夫人である。ジャワ語の人の名前には、苗字はないが、貴族や、宮廷で役割をもつ男性と結婚した場合、女性は伝統的にその男性の名前をとる。(I)bu Reksakusuma といえば Reksakusuma という名前の男性の妻である。

一方、Raden Adjeng のように貴族の称号をもって生まれた女性は称号のないひとと結婚

¹¹ ジャワ語のミサでは、神は *Gusti* と、王あるいは王子への呼びかけ語で呼ばれる。

しても自己の称号を維持している。宮廷の外側では、多くのひとと同様 *ibu* のみをつけて呼ばれるが、結婚以前から呼ばれていた名前に *ibu* をつけて呼ばれる。男性が貴族の称号を持つ女性や *Dekan* (学部長) である女性と結婚しても、それで呼称が変わることはない。

恋人同士、夫婦同士の呼びかけ語は *mas-dhek/dek/jeng*¹² と、兄—妹の呼称で呼び合う。夫が妻より年上であったとしてもこの用語は定着している。

4. 人称代名詞と呼びかけ語

Ewing (2015)は、インドネシア語における一人称、二人称の省略について、従来のポライトネス理論とは別に、文法構造によるものであると説明した。英語と異なり一人称や二人称が省略されるのは、ネガティブ・ポライトネスというよりは、これらの言語文法上の規制がないためであり、一人称二人称代名詞が使われるときは有徴の意味があることを主張した。

実際、本稿のジャワ語のデータでも第二人称代名詞、第三人称代名詞の頻度は極めて少ない。次のセクションでは、いくつかの会話の例を挙げて説明したい。

ジャワ語の人称代名詞は表 4 に示す通りである。

表 4 ジャワ語の人称代名詞

	Ngoko	Krama	Krama andhap	Krama Inggil
一人称 単数	<i>aku</i>		<i>kula</i>	<i>dalem</i>
一人称 複数	<i>awake dhewe</i>			
二人称 単数	<i>kowe</i>	<i>sampeyan</i> <i>sampeyan dalem (to king)</i>		<i>panjenengan</i>
二人称 複数	<i>kowe padhe</i> <i>awakmu dhewe</i>	<i>sampeyan sedaya</i>		
三人称 単数	<i>dheweke</i>		<i>piyambakipun</i>	<i>piyambakipun</i>
三人称 複数	<i>dheweke padha</i>			

4.1. 第二人称

上の人称代名詞の使用頻度は明らかに少ない。Ko(w)e, panjenengan, sampeyan の二人称代名詞の頻度は次の通りである。

¹² *jeng* '妹' は貴族の家族内の呼称。

表 5 *Calon Lurah* にみられる二人称代名詞頻度

二人称	頻度
<i>kowe</i>	175
<i>sampeyan</i>	22
<i>njenengan</i>	6
<i>panjenengan</i>	1
計	202

Calon Lurah で観察された第一人称代名詞は *aku, kula* のみである。*Kula* はエゴの親とエゴの恋人の父親の前のみで使っている¹³。第三人称代名詞 *dheweke, piyambakipun, panjenenganipun* は見られなかった。*Hapid, Lestari, Sinta* などの個人名に *Mas, kang, Ibu, dek*, をつける、つまり、基本としては呼びかけ語で第三人称に替える。どの映画においても *pak, mas, ibu, dek* などの親族用語に基づく呼びかけ語が、1. 呼びかけ語として使われ、第二人称は顕現しない。2. 第二人称の代替詞として使われている。*Mas Hapid* と恋人 *Lestari* との最初の会話を見てみよう。

Dialogue 1

- Mbak Lestari 1. **Mas Hapid!**
- Mas Hapid 2. **Lho, Dek Lestari!**
えー、Dek Lestari.
- Mbak Lestari 3. **Linggih kene yo, mas.**
ここに座ってね。Mas.
- Mas Hapid 4. **Heeh dek,**
え、dek.
5. **Ana apa, eh, dek?**
どうしたの、ね,dek?
6. **Kok, rene?**
ここまでするって？
- Mbak Lestari 7. **Iki lho mas, mau kan aku ke rumahnya Mas Hapid.**
こういうわけ、Mas、さっき Mas Hapid の家に行ったの。
8. **Jarene ibu, Mas Hapid ning sawah, yo, wes, aku nyusul Mas Hapid rene.**
Mas Hapid のお母さんがね、田んぼにいるっていうから、Mas Hapid のいるここまでやってきたの。

¹³ Sowan では、息子 Her が両親の前では *dalem* を用いている。

9. Eh, iyo, **aku** masak nggo **Mas Hapid** nggo bekel maem siang.
 そうそう、ねえ、私、Mas Hapid の昼のお弁当作ったのよ。

二人の会話における呼びかけ語、一人称および二人称は固定している。Hapid は *dek, dek Lestari* と呼びかけ、Lestari は *mas, Mas Hapid* を繰り返す。Lestari は一人称として一貫して *aku* を使用している。もうひとつ顕著なことは、Mas Hapid は Lestari の前では *Mas Hapid* という呼びかけ語を一人称として使う。

Dialogue 2

- Mbak Lestari 1. Panas panas ngene ki, Mas Hapid mesti kesel kerjone.
 暑いねえ、ここ。Mas Hapid はきっと仕事で疲れてるね。
- Mas Hapid 2. Iyo **dek**. Kesel, tapi, yo, tetep disyukuri, **dek**,
 そうだよ, *dek*. 疲れるよだけど、ずっと幸せでいられるよ、*dek*.
3. Soale Mas Hapid, yo, duwe prinsip, **dek**.
 Mas Hapid は原則というものをもっているからね、*dek*.

この自己への呼びかけ語を一人称として使う Mas Hapid は Lestari に、映画の最後の部分で、台湾に出稼ぎに行くと別れの挨拶にきたときにも一貫して自己を *Mas Hapid* と称していた。Lestari には *dek*, あるいは *dek Lestari* の呼称を一貫して使っていた。

Dialogue 3

- Mas hapid 1. Seksuk **Mas Hapid** meh mangkat neng Taiwan, **dek**,
 明日 Mas Hapid は台湾に向かって出発するよ、*dek*.
2. Dongak'e **Mas Hapid** sehat terus, yo, muga rezeki Mas Hapid lancar.
 Mas Hapid が元気でいられるように、行った甲斐がありますように祈ってくれ。
3. Insya Allah, **mas Hapid** neng Taiwan gur telung taun.
 台湾で3年、うまくいきますように。
4. Ngko nek **mas Hapid** bali, bakal melamar **dek Lestari**, sukur-sukur langsung nikah.
 Mas Hapid が戻ってきたら Dek Lestari に求婚して、すぐに結婚出来たらありがたいね。
5. Mugo wae **dek Lesatri** gelem ngenteni **mas Hapid** yo, lan awake dewe iso berjodoh.
 Dek Lestari が Mas Hapid のことを待ってくれるよう、そして僕たち結ばれますよう。

6. Yo wes **dek, Mas Hapid** tak pamit sek, yo.
では Dek. Mas Hapid はこれで。
7. Assalamualaikum.

一方、Kang Jayadi の方は Lestari の前で *aku* と *kowe* を使う。次の会話ダイアログ 4 は、Mas Hapid が台湾に発ち一年ほどして、Lestari が Kang Jayadi の子供を妊娠、すでにお腹が大きくなったときの会話である。Kang Jayadi は自己のことを *Mas, Mas Jay* とは呼ばず、一人称の *aku* を使い、Lestari を Lestari, dek Lestari と呼び、また *kowe* の二人称を使っている。

Dialogue 4

- | | |
|-------------|--|
| Dek Lestari | 1. Mas, iki piye, mas?
Mas, (せり出したお腹をさすりながら)これどうするの、Mas? |
| | 2. Ojo meneng ae, yo, mas.
黙ってばかりいないでよ、Mas. |
| | 3. Ngomong!!
なんか言ってよ! |
| Kang Jayadi | 4. Yo ,wes
そうだ。 |
| | 5. Aku siap tanggung jawab,
僕は責任がある。 |
| | 6. Aku tak ngomong ke bapak,
お父さんに言うよ。 |
| | 7. Aku akan segera nikahin kamu
君とすぐに結婚するよ。 |

一方、ダイアログ 5 でみられるように、Kang Jayadi は最初にバスにいた同世代らしき男性には *sampeyan* と話しかけ、選挙運動の際には青年に対し、*Bro* と話しかけ、答えがくると、*kowe* に切り替わる。第一人称は *aku* で一貫している。

Dialogue 5 Kang Jayadi と青年

- | | |
|-------------|--|
| Kang Jayadi | 1. Lho, lho, lho....beneran iki. Bro,
へいへい、Bro.
Kowe wong kene a?
君はここの人? |
| Bro X | 2. Iyo, mas.
はい、Mas. |

- Kang Jayadi 3. Ya aja lali, ya, nek aku dadi, ya, bakale, ya.
ね、忘れないでよ。僕が(村長に)なった暁にはね。
4. Desa iki tak gawe sing mewah, tak pasilitasi kabeh.
この村をすばらしいものにするんだ。施設がたくさんなの。
5. **Kowe** seneng internetan, pa, ora?
君はインターネット好きだろ、違うか?
- Bro X 6. Iya, **Mas**.
ええ、Mas.

一方、Kang Jayadi は Lestari の父には *Pak* と呼びかけこれを二人称として使うが、一度二人称である *panjenengan* を所有格にして使う(Line 9)。自己の一人称は *kula* である。

Dialogue 6

- Kang Jayadi 1. Ngeten, loh, **Pak**..
こんなことがあるんですが、Pak.
2. Eee.. Lestari kelen Hapid kan dereng 100% niki.
えーと、Lestari と Hapid はまだ 100 パーセント公式ではないです
3. Alias niku hubungane gak jelas,
つまり、関係ははっきりしていません。
4. Nek niki menawi, nggih, sak umpamo, niki, nggeh, nek **kula** niku eee..... nyeda e Lestari, pripun.
だとすると、たとえば、この私が、、、ええと Lestari に近づいたとして、いかがでしょうか。
- Pak Bayan Tedjo: 5. Maksude pripun, **mas**?
言いたいことは、Mas?
- Kang Jayadi 6. Ngeten, loh, **Pak**, ee.
そうですね。Pak. ジャワ語の人の名前には、苗字はないが、
7. Kulo modele wonge kan mboten basabasi, langsung *to the point*, nek A, nggeh, A, nek B, nggeh B,

私は、社交辞令だけの人間ではなく、A といったら A ですし、B といえは B ですから。
8. Nek kula nyenengi Lestari, putrine Pak Bayan Tedjo niku, eee **panjenengan** niku mrestui apa, mboten?
私が、Pak Bayan Tedjo、ええ、あなた様の娘さんである Lestari を好きだとすれば、祝福してもらえますか？

- Pak Bayan Tedjo: 9 Kalau aku sebagai wong tuwa ngono, yo, manut karo bocah, **mas**,
私だったら、親として、子に従いますよ、Mas、
10. Nek bocahe seneng nem, aku, ya, garek manut, **mas**, dungakno.
子が好きだったら、それに従うだけのこと、**Mas**、祈ってくれ。

第二人称の *sampeyan* と *panjenengan* の違いは *Calon Lurah* の例では、社会的距離がある場合には *sampeyan* を使うものと解釈できる。外見上、階級、年齢は近くても、まだよく知らない相手のときは、*sampeyan* を使っている。

もう一つの例は、Mas Jono という Kang Jayadi の村長選挙の対抗馬である、一見ギャングのような中年男性で、村長の立候補者 (Mas Jayadi (Jay) の対立候補者) としてやってきて、村の中年女性に声をかけ、投票してくれるように依頼するが、女性は、この Mas Jono に対し、*sampeyan* を使い、Mas Jono はこの女性にたいし、*panjenengan* の短縮形である *njenengan* を使う。Ibu XX は、「投票してください。」と声をかけられた中年女性である。

Dialogue 7

- Lek Jono 1 Cabut dulu **bu**.
Tear(that) before, bu.
まずは投票してくださいよ、bu.
- Ibu XX 2 Sek sek **Mas**,
ちょっと、ちょっとまって、mas.
Nggeh, Lha kon nyoblos **sampean** ki ana duit' e, ra?
ええ、投票するようになって、あなた (*sampeyan*) お金あるの？
- Lek Jono: 3 Heee.....ngaten **bu**, kalo saya itu tidak pernah menjanjikan uang,
ええ、とですね、**bu**.私がお金について約束を全然しないってことはですね。
4 Masalah uang, katakanlah lima puluh ribu maupun seratus ribu, bagi kami tidak ada harganya, yo, ra ,Yeng?
5 万、いや、10 万というお金の問題はですね、我々にとって値段はないようなもの、そうだろ、Yeng？
- Teyeng 5 Betul betul betul.....
その通り、その通り、その通りですとも。
- Lek Jono 6 Apabila kita menggunakan uang, katakanlah seratus ribu, seratus ribu kita bagi dalam jangka satu tahun itu jatuhnya tidak ada seribu **bu**.
お金を使うときは 10 万使ったとして、この一年間に分けたら、1000 ももらえないですよ。
7 Masak suara **njenengan** mau dijual satu ribu.
そのあなた(*njenengan*)の 1 票が 1000 ルピアで売りたいだなんてね。

- 8 Yo, jangan, tho,
そんなことはしちゃだめですよ。
- 9 Tetep pilih **Mas Jon**,
Mas Jon に投票してくださいよ、
- 10 Ya, pa, ora, Yeng.
違うか, Yeng?
- Teyeng: 11 Betul betul betul.....
その通り、その通り、その通りですとも。

Dialogue 8 では映画の最初の部分のシーンであるが、主人公であり、話のナレーターも兼ねる農村の青年 Hapid の恋人 Lestari が、道に迷ったらしい Kang Jayadi に話しかける。Lestari にとっては Kang Jayadi を知る初めてのシーンである。(Kang Jayadi はすでに、この村に戻ってきたばかりのとき、道でこの Lestari を見て、一目ぼれしている。) このとき Lestari は、Mas と呼びかけるが、最初に使用する二人称が *sampeyan* である。会話はインドネシア語語彙が混合している Ngoko である。

Dialogue 8

- Dek Lestari :1 Cari siapa **mas**?
何探してるの、mas?
- Kang Jayadi :2. Ayam.. ayam ayam..
鶏、鶏、鶏。
- Dek Lestari 3. Oh cari ayam, **sampean** salah omah, **mas**, nek bakul ayam iku nenggene Yusri, omahe sebelah kono, loh.
ああ、鶏が欲しいのなら、違う家です。鶏売っているのは Yusri 宅、あちら側よ。
- Kang Jayadi :4. Nganu, e, apa, eee... e.... aku nganu, apa ora, nyari ayam.. mhh aku lagek survey wilayah.
あの、ええと、私は鶏探しているんじゃなく、ええと、地域調査なんですよ。

Poedjosoedarmo (2017)によれば、今日のジャワ語会話は、*tepoh selira* ‘相手の立場になる’ というジャワ語の諺が示す通りインターロキューターのひとりが Krama で話したら Krama で返すという基本ルールに基づいていると主張する (Poedjosoedarmo 2017)。しかし、社会的距離がまだ近くなく、よく知らない人に話しかけると、そしてそれにこたえるときにはこの原則は適用できるが、エゴと親、エゴとその恋人の親との間ではどの映画の例でも子は Krama、親は Ngoko を、の原則違反が見当たらない。それに平行して、家族内では親と子の間には子は親に *bapak, ibu* (Hapid は *emak*) と呼びかけ Krama で話し、親は *le,nak* と呼びか

け Ngoko で話しかける。Dialogue 9 は Mas Hapid と母親との会話である。

子は親に Krama で、親は子に Ngoko で話しかけている。呼びかけ語は、Hapid は母に、*emak/mak*、母は息子に *le* で一貫している。また、Hapid は母親の前で一人称代名詞 *kula* を、母は *emak* と、息子の使う呼びかけ語を一人称として使っている。Mas Hapid が、Lestari から早く求婚してくれと言われてどうしてよいかわからない気持ちを母親に伝える。

Dialogue 9

- Mas Hapid 1. **Kulo** kaleh Lestari kan pung patang (4) sasi jalin hubungan, **mak**.
私とレスタリはもう 4 か月、一緒にいます、Mak.
2. **lah wingi bapak e Lestari nangletke teng kulo**,
それで、昨日 Lestari のお父さんが私に言ってきたんですが、
3. **kapan kulo siap n Lamar Lestari mak?**
いつ、私が Lestari に求婚したいのかと、mak.
- Emak Hapid 4. **Lah terus piye?**
ああ、それで、どうする？
- Mas Hapid 5. **Kulo bingung mak..**
私はどうしてよいのか、mak.
- Emak Hapid 6. **Le.. Lestari kui anak'e Bayan Tedjo awakmu dewe ra rerti, ya, le**, adat lan tradisine deso kene, nek nglamar anak e prangkat kui, **le**, gawane ora sepele abot, **le**, sanggahane, sing jelas
Le、あの Lestari は Bayan Tedjo の娘だからね、あんたたちはこの村の習慣や伝統がわかってないね。ああいう地位の人の娘に求婚するのは結納や支度金がちょっとしたもんじゃないことははっきりしているよ。
7. **Emak ora iso bantu akeh,le, apa neh kahanan**
Emak(私)はこんな状態ではあまり援助できないよ, le.

Hapid と母親との会話は最後に飛び、そこで Hapid は母親にお金を貯めるために台湾に出稼ぎに行くことを告げる。ここで Hapid は母親に第二人称 *jenengan* を所有格で使う。「あなた様のご加護」ということだが、突然の出発の前の挨拶ということで、フォーマルな会話になっていると思われる。

Dialogue 10 2:24:20 (Mas Hapid と母、自宅で)

- Emak Hapid :1. **Koe mau seko ndi Pid?**
お前どこにいたの、Pid.
- Mas Hapid :2. **Saking kota, mak.**
町に行っていました,mak

3. **Mak**, kulo nyuwun doa restune **jenengan**,**mak**.
Mak, あなた様のご加護をお願いします。
4. Minggu ngajeng **kulo** ajeng berangkat teng Taiwan.
来週私は台湾に発ちます。
- Emak Hapid 5. Neng Taiwan, **le**?
台湾、le?
6. Ning Taiwan ameh lapo, **le**?
台湾で何するの、le?
- Mas Hapid 7. Ajeng kerjo, **mak**.
仕事です、mak.
- Emak Hapid 8. Kerja apa, **le**?
何の仕事、le?
- Mas Hapid 9. **Kulo** ajeng kerjo teng perusahane Dikin, **Mak**, Kang'e Watik.
Watik のお兄さんの Dikin の会社で働くんです、mak.
10. Kang wes do (podo) sukses neng kono, **mak**.
お兄さんは、あちらで成功していて、mak.
11. **Kulo** tak merantau, nggih..
私も出稼ぎに行きます。
- Emak Hapid 12. **Le**, kerjo ning Taiwan kui biayane akeh, **le**..
Le,そんな台湾で仕事をするなんて、費用は相当でしょ、le.
- Mas Hapid 13. Nek masalah niku pun (sampun) diurursi Dikin, mak,
そのことなら、もう手続きは Dikin さんがやってくれてます、mak.
14. **Kulo**. tinggal mangkat,
もう発つだけです。
15. Ndek wau, kulo, nggih, bar teng kota ndamel paspor, **mak**.
さっき、パスポートを作るために町に行ってきたばかりなんです、mak.
16. **Kulo** merantau paling, yo, telung taun, **mak**, mboten suwe.
せいぜい三年、長くないです、mak.

映画において、*emak* (母親) との最後の会話もまた、スピーチ・レベルがはっきりした縦型の会話であるが、呼びかけ語は **le**‘息子よ’、が繰り返される。呼びかけ語は文の最後に再びつけられて文の tag のように位置している。

親族呼称に基づく呼びかけ語はインターロキューター同士の社会心理的關係が密であるほど二人称代替となる。もっとも近いときには一人称代替としても日常使われる。Calon Lurah においては Mas Hapid が Lestari の前で、*Mas Hapid* と自己を呼び、また、Mas Hapid

の母親も息子のまえて、*emak* と自称する。Lestari は *Mas Hapid* と相手を呼ぶが自分を *dek Lestari* とは自称せず、*aku* を使う。Hapid の母親も息子の Hapid を *Le* と呼ぶが Hapid 自身は、*Le* とは自称せず、*kula* を使う。ここには感情的な近さ、親密さとともに、非対称的な関係がみられる。一つの解釈の仕方として、それぞれ、息子の母親、恋人を持つ男性、という、息子や恋人の女性への強い愛情は明白であるが、一方、その中でも、「保護してあげる、サポートしてあげよう」とする人物が、相手が繰り返し使う呼称を「自己の一人称」にすることができるのではないかと考える¹⁴。ジャワ語においてはこれを非対称的な愛情表現とみてよいのではないかと。

5. 結論

ジャワ語の呼びかけ語の基本は親族呼称に基づく (Manns 2015, Errington 1998)。親族呼称には、年齢、社会階級などの縦の軸がかかわるが、スピーチ・レベルの重要性はあまり見られない。

また、職業名に *pak* か *ibu* をつけて、*pak guru*, *ibu guru*, *pak presiden*, *ibu negara* と呼ぶ。ジャワ語の人の名前には、苗字はないが、尊敬の呼びかけ語として *pak* や *ibu* が使われてきたが、今日では、知り合いではないが相対的に年長に見えるのであれば、労働者、市場や屋台などの仕事名にも *bapak*, *ibu* とつける。若い人に対しては、*mas*, *mbak* と話しかける¹⁵。

ジャワ語においては、*bapak*, *ibu*, *mas*, *mbak* の、それぞれ父母、年上のきょうだいを呼ぶ呼びかけ語が、社会階級、社会的距離、スピーチ・レベルの違いを越えて拡大した。

なぜか。最初に、これらの語彙がすべて世代上、年上へ向かう用語であり、年上を敬う敬意を含んでいるからと考えられる。インターロキューター同士は、その敬意を維持しながら心地よい関係を維持することができる。次に、*bapak*, *ibu*, *mas*, *mbak* はもともと *Krama* のスピーチ・レベルに属していたものであり、*Ngoko* に対してネガティブな意識をもつ人々の懸念を回避できる。最後に考えられることは、今日のジャワ語のコミュニケーションの傾向である。ジャワ語の会話は、伝統的なスピーチ・レベルで表されるような、上位・下位の縦関係の上というよりは、誰に対しても基本として、ミニマムでも敬意を含む呼びかけ語で話しかけるといふ、ポライトネス原則により近づくようになったということが言えるのではないかと。この意味では、Poedjosoedarmo (2017) が述べるように、ジャワ語もまた相手とのより快いコミュニケーションに向かうようになった。

親族間呼称が拡大した呼びかけ語で代替できるため人称代名詞の使用頻度は低い。主語

¹⁴ 日本語においては自己を XXちゃんと呼ぶ子供は、その子を呼ぶ人と自己との区別がまだつかない子供と認識される。

¹⁵ *mas* や *mbak*, *simbah/mbah* は個人名をつけて呼ばれるが、職業名や称号の前につけて呼ばれることはない。

動詞間の文法的な決まりがないという説明に加え、(cf. Ewing 2015) あえて人称代名詞に替えるよりもそのまま呼びかけ語で続けることの方をジャワ語は選ぶと説明することもできる。*Bapak* を *pak*, *ibu* を *bu*, *Kangmas* を *mas*, *mbakyu* を *mbak* と短縮し、つけるほどにポライトネスが強まることも呼びかけ語の拡大することの理由だと考えられる。

映画の会話では、心理的距離が短いほどに呼びかけ語は固定化している。一方、本稿では触れることができなかったが、発話の最初の呼びかけ語、そして、各文の最後に tag (cf. Lakoff, R.1970) として使われる呼びかけ語が顕著なことがわかる。文の最初の呼びかけ語、タグとしての呼びかけ語、また第一人称と第二人称との関係について、今後研究を進めるべきであろう。

References

- Blum-Kulka, Shoshana (1987) Indirectness and politeness in requests: Same or different? *Journal of Pragmatics* 11-2:131-146
- Brown, Roger & Stephen C. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press
- Ewing, Michael, C. (2015) Motivations for first and second person expression and ellipsis in Javanese conversation. *Journal of Pragmatics* 63: 48-62.
- Lakoff, Robin (1970) *Language and woman's place*. Stanford University Press
- Lakoff, G. and M. Johnson (1980) *Metaphors we live by*. University of Chicago Press
- レスタリ、スリ プディ (2020) 「ジャワ語の代名詞代用・呼びかけ表現 先行研究調査および用例収集」東京外国語大学齋藤スニサー研究代表 代名詞代用・呼びかけ表現の通言語的研究第2回研究会 2020年7月 (Zoom)
- (2010) 「ジャワ語の敬語に関する記述的研究—第三者敬語を中心に—」東京外国語大学博士論文
- Manns, Howard (2015) Address terms and identity in the youth Indonesian of Malang. *NUSA* 58. 73-93
- 野元 裕樹 (2020) 「代名詞代用・呼びかけ表現の通言語的研究：インドネシア語」。東京外国語大学 齋藤スニサー研究代表「代名詞代用・呼びかけ表現の通言語的研究第2回研究会」2020年7月 (Zoom)
- Poedjosoedarmo, Soepomo (2017) Language propriety in Javanese. *Journal of Language and Literature* 17-1:1-9
- Utsumi, Atsuko (2020) Address terms in the Malay world. *NUSA* 68;23-50.

Kondisi Layanan Halal di Jepang dan Tantangannya: Melalui Pengalaman Mensupport Restoran“Kiwamiya”

日本におけるハラール対応の現状と課題
—レストラン「極味や」のサポート経験から—

OHGATA Satomi (Kyushu International University)
大形里美 (九州国際大学)

要旨

2000年代以降、日本のムスリムたちもハラール肉を消費し始め、食物に対してより敏感になり始めた。ハラール食品へのニーズの高まりに合わせて、2010年代に入り多くのハラール認証機関やハラール・コンサルタントが登場し始めた。ハラール問題を扱う研究者の間にはハラールとハラール認証についての十分な理解がないため、日本国内のサービスについても国際的なハラール基準を適用しなければならないかのような誤解が拡散され、日本のローカルなハラール基準の信用を傷つけるような記述さえ見受けられる。それらは日本においてハラール対応を社会化する上での大きな障害となり、ハラールメニューを高嶺の花にしている。今日本社会は、ムスリムたちをしっかりと受け入れていくべき時にある。平和で持続可能な共生社会を築いていくためには、ムスリムと非ムスリムが共に気軽に食事を楽しめる場所を作っていくことが極めて重要である。ムスリム人口が極端に少ない日本（総人口の0.16%）の特殊状況に適応したハラール・サービスの基準を整え実践できるようにする必要がある。

Pendahuluan

Dalam beberapa dasawarsa terakhir ini cukup besar perubahan kondisi masyarakat muslim di Jepang. Sampai awal tahun 2000-an, hampir belum ada tempat yang menjual daging halal di Jepang, kecuali di masjid atau di tempat-tempat tertentu¹⁶. Maka pada masa itu kaum muslim yang tinggal di Jepang masih sangat lumrah makan daging non-halal asal bukan babi. Namun sejak tahun 1990-an, mulai ada beberapa toko online yang menjual daging halal dan produk-produk impor secara online juga. Di kota Kitakyushu, di prefektur Fukuoka, yaitu tempat penulis tinggal sejak tahun 2000, sekitar pada tahun 2005 seorang mahasiswa muslim mulai menjual daging halal dengan keliling pakai mobil. Sejak masa itulah sepertinya masyarakat muslim di kota Kitakyushu juga mulai mengonsumsi daging halal dan mulai ada yang menghindari makanan-makanan yang mengandung unsur hewani non-halal dan unsur alkohol di dalam makanannya.

Sejak tahun 2010-an, mulai muncul banyak badan-badan sertifikasi halal di Jepang, dan

¹⁶ Naoto Higuchi (樋口 2021) mengadakan penelitian mengenai Halal Food shop dan menemukan sebanyak 80 toko di seluruh Jepang, dan mencatat hanya satu halal food shop untuk di prefektur Fukuoka.

sampai saat ini(Maret 2021) tercatat paling tidak sebanyak 13 badan sertifikasi halal yang telah memberikan sertifikat halal kepada perusahaan-perusahaan yang memproduksi produk halal, seperti makanan, obat-obatan, dan kosmetik, maupun kepada restoran atau sarana penginapan yang menyediakan service halal.

Pemerintah Jepang juga telah menyadari perlunya memenuhi kebutuhan para turis muslim yang semakin meningkat jumlahnya tahun ke tahun, maka tahun 2015 kementerian pariwisata Jepang telah menyusun sebuah guidebook mengenai cara “Omotenashi” untuk menerima turis muslim (観光庁 2015) dan menghimbau terhadap dunia industri pariwisata termasuk resto dan perhotelan untuk menyediakan service yang bisa memenuhi kebutuhan turis muslim. Dengan demikian masyarakat Jepang, terutama kalangan industri pariwisata sudah cukup melek terhadap kebutuhan layanan halal dan mulai kelihatan ada resto-resto yang menyediakan menu halal, terutama di tempat-tempat banyak wisatawannya.

Namun sampai saat ini walaupun di kota-kota besar seperti di Tokyo, Osaka, atau di Kyoto sekalipun restoran yang menyediakan menu halal itu sebenarnya masih sangat terbatas. Kenapa demikian? Apa faktor menghambat resto untuk memulai layanan halal? Dalam artikel ini, penulis mencoba menganalisa apa saja faktor penghambat sehingga layanan halal belum bisa tersosialisasikan di Jepang, supaya kita bisa sama-sama berpikir langkah yang perlu kita ambil untuk ke depan.

Penulis menulis artikel ini berdasarkan pengalaman mensupport layanan halal sebuah restoran yang bernama Kiwamiya di Fukuoka sejak Mei 2019. Adapun tujuan menulis artikel ini sebenarnya bukan untuk tujuan ilmiah, melainkan untuk berbagi informasi supaya masyarakat bisa memahami permasalahan yang sedang terjadi di Jepang. Semua ini penulis lakukan untuk mengajak para pembaca supaya bisa berpikir bersama dan bergerak bersama demi terciptanya masyarakat Jepang yang Muslim Friendly, di mana tersedia banyak tempat makan untuk muslim dengan harga wajar. Maka mohon maaf sebelumnya karena penulis sengaja samarkan nama-nama para peneliti halal dan konsultan halal yang berhubungan dengan permasalahan yang penulis bahas.

1. Gambaran umum mengenai badan sertifikasi halal dan konsultan halal di Jepang

1.1. Paling tidak terdapat 13 badan sertifikasi di Jepang

Sampai saat ini(Maret 2021) setidaknya dapat tercatat 13 badan sertifikasi halal di Jepang sebagai berikut. (1) Japan Muslim Association, (2) JHA(=Japan Halal Association, (3) NAHA(=Nippon Asia Halal Association, (4) Japan Islamic Trust, Otsuka Masjid, (5) Islamic Center Japan, (6) MPJA(Muslim Professional Japan Association, (*dulu ada yang bernama Malaysia Halal Corporation Ltd. juga tetapi telah disatukan), (7) Halal Kyoto, (8) JHUA (Japan Halal Unit Association), (9) Beppu Muslim Association, Beppu Masjid, (10) JHS(Japan Halal Service), (11)Fukuoka Masjid An-Noor Islamic Center Japan, di Fukuoka, (12) Halal Made in Japan, Chiba. (13) JHF(Japan Halal Foundation)

Di antara badan-badan sertifikasi halal tersebut, banyak juga yang telah menjalin hubungan

MOU dengan badan-badan sertifikasi halal international, seperti MUI (Indonesia)¹⁷, JAKIM(Malaysia), MUIS(Singapura), GAC(Gulf Countries), dan ESMA(UAE).

Yang dapat dijuluki pelopor konsultan halal di Jepang adalah seorang Muslim asal Malaysia yang bernama Akmal Abu Hasan yang mendirikan Malaysian Halal Corporation(MHC) pada tahun 2010 di Tokyo. Dia mencetus istilah “Lokal Halal” pada tahun 2012 dan tahun berikutnya menregistrasi logo “Japan Halal Standard” sebagai trademark lokal halalnya. Kemudian dia juga mendirikan badan halal “MPJA(Muslim Profesional Japan Association)” untuk menerbitkan sertifikat halal standar international.

Adapun istilah “Local Halal” dipakai untuk standar halal yang sesuai dengan kondisi masyarakat Jepang sekarang di mana jumlah muslimnya minoritas dan sangat sulit memenuhi syarat standar international. Sebagai contoh konkrit, untuk menyajikan menu halal, menurut standar halal international harus ada karyawan muslim sebagai penanggung jawab kehalalan menu halal yang disajikannya, namun bagi resto Jepang hal itu sangat sulit, maka dalam sertifikasi “Japan Halal Standard” MHC diberi kemudahan, yaitu sebagai gantinya cukup dengan membentuk “komite halal” di dalam restoran, yang terdiri dari staf lokal non-muslim tapi yang telah mengikuti penataran mengenai halal. Cara penyelesaian seperti itu telah diikuti oleh badan-badan halal lainnya dan memberikan “Sertifikat Muslim Friendly” kepada restoran yang menyediakan “menu halal” di samping menyediakan menu non-halal di resto yang sama. Menu non-halal di sini kadang termasuk juga menu babi dan menu minuman beralkohol¹⁸.

Selain itu, di Jepang ada pula badan halal yang memberikan “Sertifikat Halal” pada “menu halal” (* sertifikat ini bukan pada restorannya, melainkan pada menunya) walaupun di restoran tersebut masih menyediakan menu-menu non-halal, termasuk menu babi dan menu minuman beralkohol.

Kebijakan seperti ini dilakukan karena mempertimbangkan kondisi resto di Jepang, di mana sangat sulit mengelola resto tanpa keuntungan dari menu-menu babi yang harganya jauh lebih murah dibanding sapi, dan juga menu minuman beralkohol yang merupakan sumber pendapatan yang sangat penting bagi restoran Jepang pada umumnya. (Lihat Tabel 1 di halaman 52.)

1.2. Keberadaan konsultan halal

Selain badan-badan sertifikasi halal, yang biasanya pengelolanya muslim, ada pula sejumlah

¹⁷ Mengenai Indonesia, sejak 17 Oktober tahun 2019, wewenang menerbitkan sertifikasi halal pindah dari MUI ke BPJPH, namun untuk artikel ini memakai nama MUI karena pihak badan sertifikat halal masih dalam proses memperbarui MOU dengan BPJPH.

¹⁸ Mengenai ketentuan boleh atau tidaknya ada menu babi atau menu alcohol, tergantung pada ketentuan badan sertifikasi halal masing-masing. Ada yang membolehkannya tetapi ada juga yang tidak membolehkannya untuk menghindari kemungkinan terjadinya kontaminasi. Informasi di sini berdasarkan hasil wawancara penulis dengan beberapa badan sertifikasi dari bulan Mei 2019 sampai Maret 2021, melalui telepon, medsos, Zoom, tatap muka.

konsultan halal yang ikut bergerak untuk mensosialisasikan layanan halal di Jepang. Kebanyakan mereka adalah orang Jepang yang non-muslim. Walaupun non-muslim, karena mereka bisa berbahasa Jepang, maka merekalah yang sering mengajar tentang halal melalui seminar-seminar yang diadakan oleh kementerian maupun pemerintah daerah dan aktif mensosialisasikan cara layanan halal di berbagai kota seluruh Jepang. Para konsultan halal tersebut dapat terbagi dua tipe.

Tipe yang pertama adalah konsultan yang bekerjasama dengan badan halal dengan menjembatani antara pihak perusahaan dan badan halal. Mereka menawarkan jasa konsultasi kepada pihak perusahaan sampai membuat dokumen untuk mengambil sertifikat halal dari badan sertifikat halal.

Kemudian tipe kedua adalah konsultan yang berdiri sendiri tanpa bekerja sama dengan badan sertifikasi halal. Konsultan tipe ini menganjurkan kepada pihak resto supaya tidak mengambil sertifikat halal dengan alasan mengambil sertifikat itu makan biaya besar dan cukup repot ketika ingin ganti menu dan prosesnya lama. Di antara konsultan tipe kedua ini ada seorang konsultan yang cukup sukses yang mengelola website khusus untuk mencari resto halal sejak tahun 2014. Dia mengajarkan kepada pihak resto yang dibimbingnya untuk tidak mengambil sertifikat halal, dan biasanya mengajarkan untuk membuat “policy” atau “kebijakan” yang tertulis untuk menjelaskan isi pelayanan “Muslim Friendly Menu” supaya kalau ada pertanyaan cukup diperlihatkan tanpa komunikasi bertele-tele. Policy yang diajarkan berisi info mengenai patokan memilih bahan-bahan dan bumbu-bumbu, tentang pemakaian dapur, pemakaian peralatan masak, pemakaian peralatan makan dll. Lalu konsultan tipe ini mempromosikan Muslim Friendly Menu-nya melalui website yang dikelolanya dengan memungut iuran perbulan dari resto, konon tarifnya yang cukup mahal yaitu berkisar 10-20 ribu yen perbulan.

2. Faktor penghambat sosialisasi layanan halal

Sejak tahun 2012 telah cukup banyak badan halal berdiri dan muncul pula sejumlah konsultan halal non-muslim di Jepang. Namun adalah kenyataan bahwa masih sangat terbatas resto yang menyediakan menu halal, sekalipun di kota-kota besar seperti di Tokyo. Kenapa demikian? Ternyata ada sejumlah factor penghambat. Di bawah ini adalah hasil analisa penulis berdasarkan pengalaman.

2.1. Tertanamkannya anggapan bahwa layanan halal itu sangat sulit dan butuh biaya yang sangat besar

Faktor penghambat utama adalah telah tertanamkannya sebuah anggapan di kalangan orang-orang resto maupun staf-staf pemerintah daerah bahwa layanan halal itu sesuatu yang sangat sulit dan butuh biaya yang sangat besar. Kalau membaca penjelasan buku-buku mengenai layanan halal yang telah terbit, tidak sedikit informasi-informasi yang kaku dan idealis tapi yang sangat sulit dilaksanakan di lapangan. Misalnya, untuk menyediakan menu halal mengharuskan dapur khusus yang terpisah dari dapur non-halal. Tempat masak, kulkas, tempat cuci semuanya harus terpisah antara untuk menu halal dan non-halal. Di dalam sebuah video yang ada di official website Sekolah Keterampilan Koki, yang

mengadakan ujian nasional untuk koki, gurunya menjelaskan bahwa, untuk masak menu halal, tempat masaknya harus terpisah dari tempat masak non-halal, dan sampai sempat menunjukkan adanya fun(kipas) di dalam duct(Saluran pengeluaran udara) supaya udara masakan non-halalnya tidak masuk ke area masak menu halal¹⁹. (Lihat Gambar 1 di halaman 54.)

Dengan belajar standar-standar seperti ini, telah berdiri juga sejumlah resto masakan Jepang halal yang “ideal” tapi harganya sangat mahal. Tahun lalu penulis pun sempat dengar dari teman owner resto ini bahwa dalam kondisi covid-19, restonya bangkrut karena tidak ada tamu jepang, maka ownernya menangis sambil berkata telah tertipu oleh konsultan halal.

Adapun yang diajarkan di video yang ada di website sekolah tadi mungkin sangat “ideal”, tetapi sesungguhnya sifatnya bukan keharusan dari segi hukum Islam. Barangkali juga ada ahli hukum Islam luar negeri yang mengajarkannya seperti itu dan itulah terlanjur dijadikan acuan banyak orang. Tetapi karena memang tidak realistis bagi resto di Jepang maka tidak berakar, dan malah menjadi sebuah hambatan besar bagi resto untuk mencoba memulai layanan halal.

Maka bukanlah hal yang mengherankan, ketika penulis mencoba meminta dukungan kepada pemerintah daerah Kitakyushu ketika mau mengadakan sebuah simposium tentang halal pada tahun 2019, sikap pegawai pada awalnya cukup dingin karena mereka telah punya anggapan bahwa layanan halal itu sesuatu yang sangat sulit dilaksanakan oleh resto-resto setempat. Tetapi alhamdulillah, setelah penulis memberi penjelasan bahwa sebenarnya syaratnya mudah dan bisa dicoba oleh resto-resto biasa dengan ambil contoh resto Kiwamiya, lalu para staf pemda pun mulai memberikan perhatian dan dukungan hingga sampai sekarang.

2.2. Tersebarnya sejumlah informasi mengenai halal yang jelas-jelas salah

Dari sekitar tahun 2016, sudah diterbitkan sejumlah buku yang dikarang oleh para konsultan halal maupun peneliti halal di Jepang. Tetapi ternyata di dalam buku-buku tersebut tidak sedikit informasi yang jelas-jelas salah, dan informasi-informasi yang ada di website juga ikut salah karena mungkin buku-buku itulah yang dijadikan referensinya. Kalau ambil contoh, di dalam sebuah buku yang dikarang oleh seorang konsultan halal yang cukup dikenal di dunia industri service halal ditemukan informasi bahwa “*Yeast* adalah haram maka harus memakai *baking powder*”, dan ada pula info bahwa “Cuka adalah haram.” Padahal *yeast* itu tidak haram, dipakai di negara-negara Muslim juga. Dan cuka juga tidak haram.

Adapula di dalam buku yang dikarang oleh seorang peneliti halal terdapat pula informasi bahwa “Semua makanan GMO dan turunannya adalah haram” dan juga ditulis bahwa “Aman kalau produk organik.” Padahal makanan GMO juga sebagian besar adalah halal dan tidak harus memakai produk organik yang mahal harganya. Kalau dengan membaca informasi-informasi seperti itu, sangat mungkin orang akan mendapat kesan bahwa menu halal itu sesuatu yang sangat istimewa dan layanan

¹⁹ <https://halalchef.jp/ハラル研修用マニュアル/> Di dalam video ini dijelaskan bahwa tempat masak menu halal dipisahkan dari tempat masak non-halal, kulkas, kompor, piring, semuanya dipisahkan.

halal itu sangat rumit dan susah untuk dicoba.

2.3. Bahan-bahan makanan dan bumbu-bumbunya mahal

Untuk menyediakan menu halal, memang daging yang dipakai harus bersertifikat halal. Kalau daging halal impor memang harganya lebih murah, namun kalau resto mau memakai daging domestik yang halal harganya lebih mahal. Karena untuk produksi daging halal di Jepang, perlu biaya yang cukup besar. Karena disembelih secara khusus dengan dibantu mesin yang harganya empat puluh juta yen untuk menahan sapi yang disembelinya²⁰, dan harus mempekerjakan penyembelih yang muslim, makanan sapihnya harus yang khusus, semuanya sudah makan biaya yang tinggi, ditambah lagi biaya untuk mengambil sertifikat halalnya. Biasanya perusahaan pemroduksi daging halal di Jepang mengambil sertifikat halal supaya daging wagyunya dapat diekspor ke negara-negara Islam, terutama ke Timur Tengah. Maka perusahaan itu harus membayar biaya untuk mendatangkan para auditor dari luar negeri pula, supaya sertifikatnya berlaku secara internasional. Walhasil semua biaya itu mau tidak mau harus ditambahkan ke harga daging halal, maka harga daging halal itu memang lebih mahal dan tidak bisa dipakai untuk umum.

Ada pula masalah bahan-bahan makanan dan bumbu-bumbu yang dipakai menu. Biasanya para konsultan halal yang tidak bekerjasama dengan badan halal membuat aturan sendiri dan mengharuskan memakai bumbu-bumbu yang sudah disertifikasi halal yang harganya cukup mahal, yang harganya bisa dua-tiga kali lipat. Memang untuk menyediakan menu halal, tidak ada keharusan untuk memakai bumbu-bumbu yang tersertifikasi halal asal ingridiennya bisa dipastikan halal. Namun karena orang-orang resto kurang faham apa itu halal, maka biasanya berguru pada konsultan halal yang mengharuskan memakai bumbu-bumbu yang tersertifikat itu.

Konsultan yang tipe itu mengajarkan untuk memakai bumbu-bumbu yang telah disertifikasi semua dan melarang adanya menu babi di resto yang sama, supaya dirinya aman karena tidak ada resiko dikomplain oleh siapapun. Dan mereka mengajarkan kepada orang-orang resto bahwa standarnya harus standar internasional karena tamu muslim datang dari berbagai negara yang berbeda-beda standar halalnya. Dan diajarkan pula bahwa kalau tidak pakai standar internasional, ada resiko dituduh telah menipu muslim, persis ditulis oleh seorang peneliti halal di bukunya. Maka syarat-syarat yang dituntutnya cukup berat bagi resto dan menjadi hambatan besar untuk sosialisasi layanan halal di Jepang sekarang.

Sementara itu, badan halal di Jepang tidak mengharuskan memakai bumbu-bumbu yang telah disertifikasi, karena yang penting adalah ingridiennya halal. Namun resto tipe itu juga harus membayar biaya sertifikasi kepada badan halal untuk menunjukkan kehalalannya. Dengan demikian, resto

²⁰ Sapi wagu badannya besar bisa 750 sampai 850 kg, maka sangat berbahaya menyembelih menahan kaki saja seperti dilakukan di Indonesia(sampai ada yang meninggal). Maka untuk menyembelih secara halal perlu alat khusus yang harganya puluhan juta yen. Hasil wawancara dengan Bapak Shinichi Hagiwara, mantan direktur perusahaan Zenkai Meat, pelopor daging sapi halal pada tanggal 18 Oktober 2020 melalui email.

manapun yang menyediakan menu halal biasanya harus mengeluarkan biaya plus yang cukup mahal. Maka menjadi si malakama persoalannya.

2.4. Informasi dari Peneliti yang memperkenalkan standar internasional dan pengaruhnya

Sampai munculnya konsultan halal yang mengharuskan bumbu tanpa sertifikat tidak terlepas dari informasi yang disebarkan oleh sebagian peneliti halal yang memberikan info mengenai halal dengan sangat detail dan lengkap, tanpa menyertai informasi yang penting. Yaitu bahwa standar halal itu tidak persis sama dengan standar sertifikasi halal tertentu, dan standar halal itu boleh berbeda-beda setiap negara sesuai dengan kondisi masing-masing. Di dalam sebuah buku ditulis bahwa “kalau memakai gula putih biasa tidak bisa dikatakan halal karena biasanya dipakai arang dari tulang sapi dalam proses pemerniannya²¹, dan tanpa memakai bumbu-bumbu bersertifikat halal susah dikatakan halal dan dapat diragukan kehalalannya.” Mungkin dia menulis seperti itu karena kurang faham karakter syari’at Islam sendiri yang sebenarnya fleksibel dan membuka pintu lebar untuk adaptasi dengan budaya-budaya lokal, selagi ada maslahat bagi umat muslim dan juga masyarakat sekitarnya yang non-muslim.

Barangkali dengan adanya info dari para peneliti ahli halal seperti itu, telah timbul keraguan dan rasa ketakutan yang semakin kuat di kalangan konsultan halal, terutama konsultan halal yang tidak mau berhubungan dengan badan halal domestik, untuk mengizinkan resto memakai bumbu-bumbu tanpa sertifikat halal, walaupun dari segi ingrediennya boleh dikatakan halal dan biasa dipakai di resto yang telah diberi sertifikat oleh badan halal di Jepang. Akhirnya para konsultan membuat aturan sendiri supaya dirinya “aman” dari tuduhan bahwa menu yang dibimbingnya “tidak halal.” Konsultan tipe ini mengajarkan para orang-orang resto untuk tidak memakai bumbu tanpa sertifikat, termasuk gula putih biasa juga, dan tidak boleh ada menu babi di resto, sambil meyakinkan para resto bahwa orang Islam itu sangat beragam jadi untuk menghindari tuduhan “tidak halal” harus patuh pada standar Internasional sebagaimana telah ditulis oleh sebagian peneliti halal. Maka setelah terbit buku seorang peneliti halal yang cukup lengkap, policy-nya yang diajarkan oleh seorang konsultan juga berubah. Yang tadinya masih membolehkan sebagian bumbunya tidak bersertifikat halal, setelah terbit buku tersebut, policy-nya berubah menjadi bumbu yang dipakai sudah bersertifikat halal. Dengan demikian tak heran jika biaya untuk menyediakan menu halal jadi mahal sehingga semboyan “Halal for Every One” pun sebatas semboyan dan nyatanya memberatkan pihak resto, serta merugikan muslim sebagai konsumernya dengan harga yang tinggi.

Memang konon kabarnya status kehalalan gula putih sempat jadi perhatian oleh badan halal yang ada di jepang sekitar tahun 2016-an karena ada upaya penyesuaian dengan standar halal dari badan halal internasional, dalam hal ini dari JAKIM(Jabatan Kemajuan Islam Malaysia) dan dari MUI(Indonesia) untuk produk yang akan dipasarkan di negerinya. Namun setelah dikaji badan halal

²¹ Ada pula gula putih biasa yang tidak memakai arang tulang sapi dan telah mengambil sertifikat halal, seperti Pabrik Fukuoka, Mitsui Seito.

itu berkesimpulan bahwa sangat sulit mengharuskan pakai gula putih yang bersertifikat halal dalam kondisi Jepang sekarang ini, maka badan halal membolehkan penggunaan gula putih biasa untuk kebutuhan pelayanan halal domestik. Perlu diketahui bahwa standar halal yang disusun dan diputuskan oleh JAKIM maupun MUI berdasarkan satu kompilasi fatwa yang mengadopsi pandangan hukum yang paling hati-hati atau paling strik²², maka memang bukan keharusan untuk diterapkan untuk layanan halal domestik di Jepang.

Karena badan halal di Jepang pun mempunyai bagian Syariah, di mana ada ahli hukum Islam yang faham bahwa standar halal untuk restoran domestik memang harus disesuaikan dengan kondisi Jepang sekarang, tidak jadi mempermasalahkan kehalalan gula putih karena tidak realistis. Setelah penulis konfirmasi ke beberapa pihak, badan sertifikasi halal di Jepang seperti NAHA yang mengeluarkan sertifikat “muslim friendly” kepada Cafeteria di APU (Asia Pasific Ritsumeikan University) yang menyediakan “menu halal” pun memang membolehkan memakai bumbu-bumbu biasa yang tanpa sertifikat halal, seperti gula putih biasa, miso biasa, cuka biasa, Kewpie Mayonnaise biasa, Kagome Tomato Ketchup biasa dll., asal terjamin kehalalannya dengan mengecek ingrediennya.²³

2.5. Biaya memperoleh sertifikat halalnya mahal dan akibatnya

Biaya memperoleh sertifikat halal di Jepang sangat mahal. Dari hasil wawancara dengan beberapa badan sertifikasi halal, biayanya berkisar sekitar 300 ribu yen sampai 500 ribu yen dan ada pula info bahwa kalau memakai jasa konsultan halal, akan ditambah 500 ribu yen lagi, dan masa berlaku sertifikatnya hanya satu tahun dan harus diperbaharui setiap tahun.

Dengan demikian ada konsultan yang tipe yang tidak menganjurkan mengambil sertifikat, tetapi sebagai gantinya mengharuskan bumbu yang telah disertifikat dan melarang adanya menu babi di resto. Lalu ada pula masalah cara promosi menu halal resto jika tidak ada sertifikat dari badan halal. Konsultan halal non-muslim biasanya menganjurkan tidak memakai tulisan “Muslim Friendly Menu” apalagi “Menu Halal” di depan resto, dengan alasan jika ada tulisan khusus di depan resto akan menjauhkan tamu-tamu orang Jepang. Padahal belum tentu demikian dan bimbingan seperti itu justru akan menjauhkan masyarakat Jepang dari kesempatan belajar apa itu halal. Tetapi dengan adanya bimbingan seperti itu, biasanya para resto harus mengandalkan promosinya pada media website yang dikelola oleh konsultan halal yang iurannya cukup mahal pula.

Dari uraian di atas barangkali mudah-mudahan sudah cukup jelas kondisi seputar masalah

²² Hasil wawancara dengan Ustadz Tohir Mabruhi secara online pada tanggal 6 Maret 2021. Ustadz Tohir adalah alumni fakultas hukum Universitas al-Azhar Kairo dan sekarang menjadi imam masjid Chiba dan menjadi CEO JHS(Japan Halal Service) sejak tahun 2018 setelah bekerja sebagai staf bidang Syariah di JHA(Japan Halal Association) di tahun 2013-2018.

²³ Hasil wawancara dengan Bapak Sugigaki, penanggung jawab menu Halal di Cafeteria APU melalui telepon dan email pada tanggal 19 dan 25 Februari tahun 2021.

layanan halal di Jepang di mana telah terlanjur tercipta citra bahwa menyediakan menu halal itu amat sangat istimewa dan telah tertanam citra di kalangan resto dan staf pemerintahan bahwa layanan halal itu persyaratannya rumit dan makan biaya yang mahal. Dan nyatanya juga demikian, Walhasil mensosialisasikan menu halal di Jepang merupakan suatu hal yang tidak mudah.

3. Usaha resto Kiwamiya di Fukuoka untuk menyediakan menu Halal

3.1. Mulai menu Motsunabe Halal

Dalam kondisi seperti di atas, seorang konsultan mengajak sejumlah resto untuk mencoba layanan halal di kota Fukuoka. Tetapi yang menanggapi ajakan itu hanya satu resto saja, yaitu resto Kiwamiya. Belakangan penulis mendengar dari Bapak Kazuyuki Matsuo selaku direktur Kiwamiya alasan kenapa waktu itu Kiwamiya menerima ajakannya. Katanya karena waktu itu Kiwamiya belum tahu tentang halal dan begitu mendengar bahwa kaum muslim yang datang ke Fukuoka mengalami kesulitan untuk mencari tempat makan, beliau langsung menerima ajakannya karena ingin “Hitodasuke (人助け=menolong orang).”

Kiwamiya adalah nama restoran yang dikelola oleh sebuah perusahaan yang bernama “Wahhahha” (tiruan bunyi tertawa, karena motto perusahaannya adalah “kalau jumpa wajah tertawa, akan jadi wajah tertawa pula”) yang berkantor pusat di kota Fukuoka, prefektur Fukuoka. Resto Kiwamiya bermula dari resto BBQ kecil yang didirikan oleh Bapak Matsuo sendiri pada tahun 2001. Sekarang Kiwamiya mempunyai sejumlah cabang, termasuk di Shibuya PARCO di Tokyo, dan terkenal sebagai “resto Hamburg Black Wagyu yang enak yang tak pernah putus antrean tamunya.” Dengan adanya ajakan dari seorang konsultan, shef dari salah satu cabang Kiwamiya pun mencoba menciptakan menu “Motsunabe Halal” dengan diberitahu bahan-bahan dan bumbu-bumbu yang boleh dipakai untuk menu halal dari konsultan. “Motsunabe” adalah sebuah menu hot pot dari jeroan sapi yang merupakan salah satu menu khas Fukuoka.

Untuk menciptakan menu Motsunabe Halal, konsultan halalnya mengajarkan tidak boleh memakai gula putih biasa dan menyuruh memakai gula tebu yang tanpa proses pemurnian, dan mengharuskan memakai kecap asin yang bersertifikat halal dll. Setelah reseponya jadi, konsultan mengajarkan untuk membuat “policy” (kebijakan) mengenai “Muslim Friendly Menu” yang dibimbingnya. Adapun info yang tercantum di dalam policy-nya antara lain, menunya tidak mendapatkan sertifikat halal dari pihak ketiga, bahan dan bumbu-bumbunya memenuhi standar halal, peralatan masak terpisah, dapurnya dipakai untuk menu non-halal juga, piring-piringnya sama dengan untuk non-halal dan kalau perlu akan disediakan piring kertas dan gelas kertas. Adapun mengenai cara pemakaian dapur, di Kiwamiya tidak memisahkan dapur, karena dapurnya sangat sempit. Seperti akan dipaparkan nanti, sebelum resto cabang Motsunabe Kiwamiya mengambil sertifikat untuk menu halalnya, peralatan untuk menu halalnya belum disimpan di satu tempat yang terpisah. Jadi boleh dikatakan, mengenai bumbu-bumbu yang diajarkan oleh konsultan itu ikut standar internasional dan lebih ketat dari standar badan-badan sertifikasi halal di Jepang, namun mengenai pemakaian dapur

dan peralatan, yang diajarkan konsultan halal itu belum memenuhi standar badan sertifikasi halal.

Mengenai istilah, konsultan tidak memperbolehkan memakai istilah “halal” untuk menunya karena takut ada tuduhan, namun dipromosikannya melalui website tentang menu-menu “halal”, sehingga menu Motsunabe yang dia bimbing itu sejak awal dikenal sebagai “Halal Motsunabe.” Karena promosinya pun berhasil, banyak tamu muslim datang ke Kiwamiya untuk makan Motsunabe Halal itu. Menurut info dari manager Kiwamiya, pada akhir Desember tahun 2019, tamu muslim mencapai 600 orang dalam satu bulan²⁴.

3.2. Mencoba menu BBQ Wagyu Halal di resto BBQ biasa

Dengan adanya respon positif dari tamu-tamu muslim untuk menu Motsunabe Halal, direktur Kiwamiya pun mempunyai ide untuk menyediakan menu halal di resto BBQ yang rencana akan dibuka beberapa bulan kemudian setelah menu Motsunabe Halal dimulai. Penulis pun ditanya oleh direkturnya²⁵, apakah kira-kira akan ada tamu muslim yang mau makan BBQ Halal di samping orang makan BBQ babi atau tidak. Lalu penulis pun mencoba menanyakan pendapat teman-teman muslim di Indonesia dan di Singapura melalui medsos. Ternyata dari 25 orang yang menjawab, hanya dua orang saja yang menyatakan tidak mau, dan yang lainnya menjawab “tentu saja mau” atau “kalau menu yang saya pesan adalah halal, tidak peduli dengan menu punya orang lain.” Setelah memperoleh jawaban tersebut, penulis pun menerjemahkan jawaban teman-teman ke dalam bahasa Jepang dan menyampaikannya kepada direktur Kiwamiya. Lalu Kiwamiya memutuskan untuk menyediakan menu BBQ Halal di resto BBQ yang akan dibukanya bulan Juli 2019.

Namun dalam proses persiapan, tiba-tiba timbul masalah besar. Yaitu rencana menyediakan menu BBQ Halal ditentang keras oleh konsultan. Walaupun secara resmi konsultan itu tidak ada kontrak dengan resto, dia mengotot supaya dibatalkan rencana tersebut dengan alasan “sangat berbahaya” “kalau terjadi kesalahan, tamu muslim akan marah besar dan ribut di medsos dan resto akan bangkrut.” Lalu para pimpinan resto Kiwamiya pun akhirnya tunduk pada konsultan karena jadi ketakutan akan terjadi masalah besar kalau menyajikan menu halal di resto yang ada menu babi, lalu meminta kepada direkturnya untuk membatalkan rencana menu BBQ Halalnya.

Sebenarnya konsultan juga memberikan solusi untuk masalah itu, yaitu cara memisahkan lantai untuk menu halal dan non-halal, lantai dapur maupun lantai penyajiannya disuruh dipisah. Namun cara demikian sangat tidak realistis di kota Fukuoka di mana hampir tidak ada penduduk muslim, maka sangat riskan dari segi manajemen.

Dengan demikian semangat para staf Kiwamiya pun jadi terpatahkan, padahal tadinya

²⁴ Informasi yang diberikan dari Bapak Nakada selaku manager Kiwamiya dalam wawancara pada tanggal 4 Desember 2020 melalui telepon.

²⁵ Sejak bulan Mei 2019 penulis mulai mencoba mensupport layanan halal di resto sebagai kegiatan prabono dalam rangka membuat masyarakat Jepang jadi Muslim Friendly dengan memperbanyak resto yang menyediakan menu halal di Jepang.

menggebu-gebu semangatnya untuk membahagiakan tamu muslim dengan menu BBQ Black Wagyu yang Halal dengan harga murah, karena resto Kiwamiya terkenal sebagai pelopor resto BBQ Balck Wagyu yang menjual dengan harga miring.

Dan pada saat itu pula direktur Kiwamiya pun sempat menderita karena tiba-tiba timbul benjolan besar di kepalanya yang amat sangat menyakitkan. Karena tidak tertahan lagi, direktur pun mencoba pergi ke dokter untuk diperiksa. Lalu menurut diagnosa dokter, benjolannya itu timbul karena stres berat. Ternyata memang begitu berat stres yang harus ditanggung seorang direktur Kiwamiya untuk memikirkan supaya bisa menyediakan menu BBQ Halal di resto BBQ biasa.

Beliau sempat mengatakan, memang sangat gampang buang salah satu dari menu babi atau menu halal. Namun Akhirnya beliau pun memutuskan untuk tetap menyajikan menu halal di samping menu babi. “Aku tak mau kalah karena aku punya cita-cita, yaitu perdamaian dunia. Tapi karena aku cuma seorang koki, maka perdamaian dunia yang bisa aku wujudkan adalah mungkin menyediakannya tempat makan untuk semua orang untuk bisa makan dengan duduk bersama tanpa pandang bulu,” katanya. Sekedar info, daging BBQ yang dipakai di resto Kiwamiya dikirim ke resto dalam kondisi sudah dipotong-potong dan dibekukan maka di resto Kiwamiya hanya dicairkannya memakai microwave yang disediakan khusus untuk halal, maka boleh dikatakan sangat aman tanpa bahaya kontaminasi.

3.3. Membuat Hamburg Black Wagyu yang Halal

Karena menu utama resto Kiwamiya adalah “Hamburg Black Wagyu”, maka direktur Kiwamiya pun mempunyai ide untuk membuat Hamburg yang halal sebagai tahap berikutnya. Direktur Kiwamiya ingin tamu muslim juga bisa menikmati Hamburg Black Wagyu yang dia banggakan itu. Maka sekitar awal bulan Oktober tahun 2019, penulis pun ditanya oleh direktur Kiwamiya apakah boleh memakai mesin yang sama atau tidak untuk memproduksi Hamburg yang halal. Karena penulis bukan ahli hukum Islam untuk masalah layanan halal, maka mencoba konsultasi kepada ahlinya, yaitu Bapak Qureshi, sekjen Japan Islamic Trust, Masjid Otsuka di Tokyo.

Menurut Bapak Qureshi, untuk pemakaian non-bisnis boleh memakai mesin yang sama, namun untuk memproduksi barang dagangan harus membeli onderdil baru untuk bagian yang langsung kontak dengan bahan makanannya, supaya bisa menghindari keragu-raguan akan terjadinya kontaminasi. Begitu penulis sampaikan kepada direktur Kiwamiya, beliau pun kelihatan sempat shok berat karena onderdil mesinnya cukup mahal. Namun karena beliau ingin membahagiakan tamu muslim dan ingin melihat “wajah tertawa”-nya, maka akhirnya memutuskan untuk membeli onderdil- onderdil yang baru supaya bisa memproduksi Hamburg yang halal. (Lihat Gambar 2 di halaman 54.)

Dengan demikian, sejak Desember 2019 Kiwamiya sudah mulai memproduksi “100% Halal Black Wagyu Hamburg” di Central Kitchen Kiwamiya dan sudah disajikan di empat cabang, yaitu Cabang Fukuoka PARCO, Cabang Hakata Ekimae-ten di Fukuoka, Cabang Namba Osaka, dan

Cabang Shibuya PARCO Tokyo²⁶.

4. Langkah sampai mengambil Sertifikat Halal

4.1. Dicek oleh Bapak Qureshi dari Japan Islamic Trust, Otsuka Masjid

Setelah mencoba menciptakan beberapa menu halal, direktur Kiwamiya mulai berpikir untuk memperoleh sertifikat halal supaya tamu muslim bisa makan dengan rasa aman. Karena penulis sempat ditanya oleh direktur Kiwamiya apakah kira-kira ada pihak yang mau memberikan sertifikat halal kepada menu halal Kiwamiya, maka penulis pun mencoba menjajaki kemungkinannya.

Pada tanggal 17 Oktober 2019, Bapak Qureshi, sekjen Japan Islamic Trust dari Otsuka Masjid, dengan baik hati bersedia datang mengecek menu Halal di resto Kiwamiya dalam kesempatan beliau datang ke Fukuoka untuk urusan pribadi yang lain. Setelah dicek, bahan-bahan maupun bumbu-bumbunya sudah memenuhi standar. Dan mengenai pemakaian dapur juga pada dasarnya sudah semua memenuhi standar halal, kecuali ada beberapa nasehat supaya dikoreksi, yaitu cara menyimpan peralatan masak khusus untuk halal dan pemakaian gelasnyanya. Setelah dicek dan mendapat nasehat dari Bapak Qureshi, resto Kiwamiya pun langsung memperbaikinya. (Lihat Gambar 3 di halaman 55.)

Setelah dicek, Japan Islamic Trust bersedia memberikan sertifikat halal pada menu halal di Kiwamiya, namun karena cabang-cabang resto Kiwamiya terletak di kota Fukuoka, maka cukup jauh dari Masjid Otsuka yang terletak di Tokyo, jika setiap tahun harus dicek kembali untuk memperbarui sertifikat halal, biayanya bisa cukup besar belum lagi biaya sertifikatnya. Padahal direktur Kiwamiya ingin menyediakan menu halalnya dengan harga yang sama dengan menu Hamburg biasa walaupun daging halal dan bumbu-bumbu halalnya lebih mahal. Dengan demikian penulis pun menjajaki alternatif.

4.2. Dicek oleh imam Fukuoka Masjid

Penulis mencoba menjajaki kemungkinan bisa atau tidaknya untuk meminta sertifikat halal kepada masjid setempat, yaitu Masjid Fukuoka, yang waktu itu belum pernah memberikan sertifikat halal kepada pihak mana pun. Namun begitu penulis mencoba mengirimkan surat permintaan dengan menjelaskan kronologi dan kondisi menu halal di resto Kiwamiya, ternyata disambut dengan baik oleh imam Masjid Fukuoka dan langsung ada respon yang mengharukan bahwa Masjid Fukuoka bersedia memberikan sertifikat halal dengan “free of charge” jika menunya memang memenuhi standar halal.

Lalu setelah dicek dokumen-dokumen mengenai bahan yang dipakai untuk membuat semua menu halal di resto Kiwamiya, dan dicek juga pemakaian dapurnya, alhamdulillah dinyatakan semuanya sudah memenuhi standar halal. Kemudian akhirnya pada awal Desember 2019 diberikan sertifikat halal kepada beberapa menu halal di Kiwamiya, yaitu antara lain menu Motsunabe Halal, menu BBQ Halal, dan menu Hambrug Black Wagyu Halalnya. Untuk masalah sertifikasi halal ini,

²⁶ <https://www.kiwamiya.com/halal/>

imam Masjid Fukuoka yang asal Libia sempat menulis himbauan melalui Facebook²⁷. Ternyata imam Masjid Fukuoka memutuskan untuk menggratiskan sertifikat halal karena faham permasalahannya dan mengajak masjid-masjid lain mengikutinya untuk mengubah kondisi.

Namun sebenarnya tidak mudah mengeluarkan sertifikatnya secara gratis seperti Masjid Fukuoka, karena bagaimanapun juga banyak tenaga dibutuhkan untuk membuat dokumen, diaudit, sampai diterbitkannya sertifikat halal. Maka perlu menciptakan sebuah sistem untuk menopang kegiatan semacam itu. Menurut hemat penulis, ada baiknya juga dipikirkan sebuah sistem di mana komunitas muslim setempat yang ikut andil atau bekerja untuk menopang sistemnya, karena yang menerima keuntungannya adalah kaum muslim. Barangkali bisa juga zakat dari komunitasnya dipakai juga untuk menyediakan tenaga sukarelawan/wati yang bisa menopang kegiatan sertifikasi halal demi memperbanyak tempat makan buat kaumnya.

5. Kesalahfahaman konsultan bisa menghambat sosialisasi layanan halal

5.1. Pengambilan sertifikat Halal dipermasalahkan oleh konsultan

Ketika baru diberi sertifikat halal dari Masjid Fukuoka, penulis tiba-tiba mendapat telepon dari konsultan yang waktu itu masih sering berhubungan dengan staf Kiwamiya, walau secara formal tidak ada ikatan kontraknya dia selalu memantau resto Kiwamiya seperti restonya sendiri. Dia mempersoalkan Kiwamiya telah memperoleh sertifikat halal, dengan alasan andai badan-badan sertifikasi halal luar negerinya tahu bahwa produk-produk halal yang mereka beri sertifikatnya dijual ke perusahaan yang menyediakan menu babi, sertifikat halal yang telah dimiliki oleh produser produk halal itu “bisa-bisa akan dicabut.” Menurut argumen dia, andai produser daging sapinya takut akan hal itu dan tidak menyuplai lagi dagingnya ke Kiwamiya, Kiwamiya akan bangkrut. Karena penulis kurang faham logikanya, maka sempat menanyakan kepadanya apakah ada peraturan yang tertulis mengenai hal itu atau tidak. Dia jawab “memang tidak ada.” Penulis pun semakin tidak faham logikanya, maka terpaksa berusaha untuk mengkonfirmasi masalah itu melalui berbagai jalur.

5.2. Konfirmasi kepada pihak yang berwenang

Penulis akhirnya memperoleh jawaban dari Prof. Sukoso selaku ketua BPJPH (Badan Penyelenggara Jaminan Produk Halal) di Jakarta pada tanggal 23 Desember 2019, melalui wawancara langsung dengan beliau di kantor BPJPH. Beliau menjawab sambil tertawa bahwa tidak menjadi masalah daging halal dijual kepada siapa pun dan dimasak dengan cara apa pun. Menurut beliau, karena hal itu bukan urusan badan sertifikasi halal lagi. “Berpikir pakai logika,” kata beliau. Hasil wawancara tersebut penulis langsung kirimkan melalui email kepada pihak-pihak yang bersangkutan, yaitu Kiwamiya, produser daging halal, dan konsultan tadi. Lalu alhamdulillah masalah pun selesai. Kue produk halal yang biasa disajikan di Kiwamiya, tadinya sempat berhenti suplaynya, tetapi setelah itu mulai normal kembali.

²⁷ <https://www.facebook.com/FukuokaMasjid/photos/2778736948836745>

Dari kejadian di atas, barangkali kita bisa ambil sebuah kesimpulan bahwa di kalangan konsultan ada kesalahfahaman mengenai konsep halal dan sistem sertifikasi halal, sehingga sampai mencampur adukkan peraturan standar internasional dan standar domestik, dan hal itu ada kalanya bisa menghambat sosialisasi layanan halal di Jepang.

5.3. Latar belakang terjadinya kesalahfahaman konsultan

Sepertinya masalah ini tidak terlepas dari pemahaman yang menganggap bahwa standar halal Jepang itu harus persis sama dengan standar internasional. Ada peneliti halal non-muslim kurang faham makna dan kedudukan sertifikat halal lokal dan diskreditkannya melalui tulisan tanpa disadari. Yang penting adalah memahami bahwa standar halal itu tidak hanya standar halal internasional yang diterapkan pada produk diekspor, melainkan ada juga standar halal untuk service lokal yang harus sesuai dengan kondisi Jepang saat ini supaya tidak memberatkan dan tidak menyulitkan pihak resto maupun kaum muslim sebagai konsumen. Sayangnya sebagian peneliti halal tidak faham bahwa syariat Islam itu sebenarnya mempunyai fleksibilitas dan toleransi supaya dapat diterapkan di mana pun dan pada zaman apa pun, sehingga mereka telah mendiskreditkan standar Jepang atau “lokal halal.” Di dalam sebuah buku seorang peneliti halal menulis bahwa “istilah ‘lokal halal’ bisa dimengerti sebagai sesuatu yang membelokkan konsep halal”, “badan sertifikasi halal di Jepang yang tidak mempunyai basis keagamaan cenderung longgar standar sertifikasinya karena mereka perlu mendapatkan pendapatan yang diperlukan untuk menggaji karyawan dan tata usahanya”, “sertifikasi halal seperti ini tidak berlaku secara internasional dan merupakan penghinaan terhadap kaum muslim.” Lalu ditambah lagi kalimat yang bisa menimbulkan kesalahfahaman terhadap Islam dan kaum muslim pada umumnya yaitu “di antara muslim yang merasa ternodai agamanya ada kemungkinan muncul orang yang memprotes dengan cara yang tak terduga. Itu adalah hal yang tidak bisa dimengerti oleh kebanyakan orang Jepang yang tidak religius.” Kalimat-kalimat yang bukan-bukan ini sangat besar pengaruhnya pada konsultan di lapangan dan kalimat yang terakhirnya bisa menimbulkan kesalahfahaman dan rasa ketakutan terhadap muslim di masyarakat Jepang.

Yang perlu difahami adalah status lokal halal itu bukanlah “pembelokan konsep halal” melainkan sebuah kebutuhan dan keharusan. Seorang pakar MUI, senior auditor, sempat menganjurkan kepada penulis melalui sebuah pengajian di Zoom, untuk kondisi di Jepang boleh memakai “fiqh akoliyah” yang berarti fiqh minoritas yang digagas oleh Syeik Yusuf Qardawi²⁸. Kaum muslim di Jepang membutuhkan Istandar halal yang sesuai dengan kondisi Jepang dan para konsultan dan para peneliti juga harus memahami dan menghargai hal itu demi kepentingan umat muslim di

²⁸ Kalam TV (2021). Di durasi 1:35-1:37 ada pernyataan dari Ustadz Aminuddin Yaqub selaku pejabat MUI bahwa untuk di Jepang boleh memakai *fiqh akoliyah*(fiqh Minoritas) yang membolehkan memakai bahan-bahan beralkohol, jika alkohol itu berasal dari alkohol sintesis kimiawi dan bukan dari industry khamar, dan di produk akhirnya tidak terdeteksi lagi unsur alkoholnya.

Jepang dan yang berkunjung ke Jepang.

Tetapi rasanya tetap sangat sulit mengubah kondisi sekarang ini, selagi belum ada pernyataan tertulis dari pihak yang berwenang seperti BPJPH atau JAKIM bahwa untuk keperluan domestik boleh memberlakukan standar halal yang lokal yang sesuai dengan kondisi muslim sebagai kaum minoritas. Karena para resto harus menerima para tamu dari berbagai negeri yang sudah memberlakukan standar halal internasional, dan maka wajar mereka terpaksa percaya apa kata konsultan dan terpaksa memakai bumbu-bumbu yang paling aman dan mahal, sehingga harga menunya pun jadi mahal dan layanan halal merakyat juga tidak dapat disosialisasikan.

6. Kesimpulan

Untuk mewujudkan sebuah masyarakat majmuk yang harmonis, yang inklusif tanpa ada diskriminasi, barangkali sangat penting tersedianya tempat makan di mana semua orang bisa menikmati makanan bersama di satu meja yang sama. Karena melalui komunikasi manusia bisa memahami satu sama lain dengan baik walau berbeda budaya dan latar belakang. Dan barangkali berkomunikasi sambil makan bersama adalah cara yang sangat efektif untuk mendekatkan perasaan dan menciptakan rasa kebersamaan di antara orang-orang yang beda bangsa atau beda agama.

Menurut hemat penulis, untuk membuat masyarakat Jepang menjadi masyarakat majmuk yang ramah pada muslim untuk ke depan, sudah barang tentu perlu sikap toleran dari masyarakat Jepang sendiri sebagai pihak menerima kaum muslim, namun perlu pula sikap toleran atau sikap lapang dada dari pihak muslim sebagai pihak yang diterima untuk memahami dan menerima kondisi masyarakat Jepang. Dan penulis pun yakin bahwa di dalam ajaran Islam memang ada kearifan yang mengajarkan hal seperti itu. Dalam hal ini yang perlu difahami oleh tamu muslim ke Jepang adalah kondisi para resto Jepang yang banyak kendalanya, tapi ada yang bersungguh-sungguh mencoba melayaninya seperti contoh resto Kiwamiya. Maka menghargailah semua usaha itu. Dan kalau yang dituntut muslim itu tidak terlalu memberatkan, penulis yakin pasti banyak sekali resto yang sudi menyediakan menu halal. Karena orang Jepang suka kata “Hitodasuke (人助け)” yaitu berarti “menolong orang.” Adapula pribahasa dalam Jepang bahwa “Nasake wa hitonotame narazu (情けは人の為ならず)” yang artinya membantu orang lain itu sebenarnya bukan untuk orang lain, melainkan untuk diri sendiri juga, karena tindakan setiap orang akan berkeliling ke orang lain dan akan kembali ke diri kita sendiri. Barangkali pribahasa itu lahir di Jepang di mana tanahnya sempit dan miskin, maka orang tidak bisa hidup tanpa tolong-menolong.

Kiranya yang perlu kita ciptakan adalah masyarakat di mana tersedianya banyak resto yang bisa menyediakan menu-menu untuk muslim juga dengan harga wajar, walau dalam kondisi yang terbatas tetapi tetap syari’i dengan memenuhi standar halal, dalam hal ini bukan standar sertifikasi halal internasional, yang telah ditambah aturan-aturan yang sebenarnya bukan esensial dari segi hukum Islam. Barangkali juga kondisi seperti itu belum bisa memuaskan muslim yang kaku pemahamannya yang telah punya persepsi bahwa bahwa standar badan halal itu harus universal dan standar badan halal Internationallah yang benar dan yang lainnya salah.

Tetapi menurut hemat penulis, tidak hanya orang yang menerima muslim saja yang harus berusaha, namun pihak yang diterima juga dengan lapang dada harus berusaha untuk memahami kondisi resto yang menerima tamu muslim itu. Penulis pun yakin bahwa Islam dapat berkembang dan tersebar dari tanah suci ke seluruh dunia, karena orang-orang Islam dari zaman dulu sangat arif dan fleksibel ketika bersentuhan dengan masyarakat non-muslim yang berbeda budayanya karena ajaran Islam juga mengajarkan untuk hidup rukun bersama non-muslim.

Bagi masyarakat Jepang juga, memahami masalah seputar halal itu sebenarnya bisa merupakan kunci untuk memahami budaya Islam yang berbeda-beda serta memahami keberagaman dan keberagamaan orang-orang muslim. Dengan demikian mungkin dapat menghilangkan pandangan-pandangan orang Jepang yang stereotip yang sedikit negatif terhadap orang Islam yang selama ini yang terlanjur terbentuk dengan adanya berita-berita tentang terorisme, dan hal itu sangat berharga dan bisa menjadi modal besar bagi masyarakat Jepang untuk menciptakan masyarakat yang lebih harmonis tanpa ada kesalahfahaman dan diskriminasi terhadap yang berbeda budaya dan berbeda agama.

Maka seharusnya yang kita harapkan adalah bukan sejumlah resto full-halal yang mungkin dapat ibaratkan sebagai “akuarium” yang eksklusif yang di dalamnya hanya ada tamu muslim dengan membuat sekat di tengah-tengah masyarakat Jepang, melainkan tersedianya sebanyak mungkin resto biasa yang bisa mengayomi tamu muslim di tengah-tengah masyarakat Jepang, tidak hanya turis saja tetapi juga para penduduk setempat memerlukan tempat seperti itu, supaya bisa mempunyai kesempatan untuk duduk bersama dan makan bersama dengan non-muslim demi terjalannya persahabatan dan terciptanya masyarakat yang harmonis dan damai. Semoga masyarakat Jepang bisa menerima muslim dengan cara yang terbaik.

---Doaku---

Tabel 1 Perbandingan syarat sertifikasi oleh beberapa badan sertifikasi halal di Jepang

	Sertifikat Halal terhadap Resto	Sertifikat Muslim Friendly terhadap Resto (badan sertifikasi A)	Sertifikat Muslim Friendly terhadap Resto (badan sertifikasi B)
Daging	Halal	Halal	Halal
Bumbu ²	Halal	Halal	Halal
Staf Muslim	Harus	tidak harus	tidak harus
Dapur	khusus Halal	boleh sama	boleh sama
meja masak	khusus Halal	boleh sama	boleh sama
peralatan masak	khusus Halal	khusus Halal	khusus Halal
kulkas/freezer	khusus Halal	khusus Halal	boleh sama(lacinya dipisah, pakai kotak kedap udara)
piring	khusus Halal	khusus Halal	khusus Halal
menu babi	NG	NG	OK
menu miras	NG	OK	OK
biaya	berbayar	berbayar	berbayar

Sertifikat Halal Masjid Otsuka terhadap menu Halal	Sertifikat Halal Masjid Fukuoka terhadap menu Halal	Menu yang telah memperoleh sertifikat Halal dari Fukuoka Masjid	
		Kiwamiya Halal Motsunabe, 100% Halal Black Wagyu Hamburg	Kiwamiya Halal Black Wagyu BBQ
Halal	Halal	Halal	Halal
Halal	Halal	Halal	Halal
tidak harus	tidak harus	tidak harus	tidak harus
boleh sama	boleh sama	sama	sama
boleh sama	boleh sama	sama	sama
khusus Halal	khusus Halal	khusus Halal	khusus halal (tongnya khusus halal →sama)
boleh sama (lacinya dipisah.*Kalo ada babi pintunya dipisah.)	boleh sama (*dianjurkan disimpan di tempat terpisah.)	boleh sama (lacinya dipisah)	boleh sama (pintunya dipisah)
khusus Halal	Boleh sama	sama	khusus halal →sama
OK	OK	tak ada	ada
OK	OK	ada	ada
berbayar	gratis	gratis	

Sumber: Penulis membuat dengan berdasarkan hasil wawancara penulis dengan beberapa badan sertifikasi halal dari bulan Mei 2019 sampai Maret 2021, melalui wawancara telepon, medsos, Zoomtatap muka, dan juga melalui pengalaman langsung dalam mensupport resto Kiwamiya.

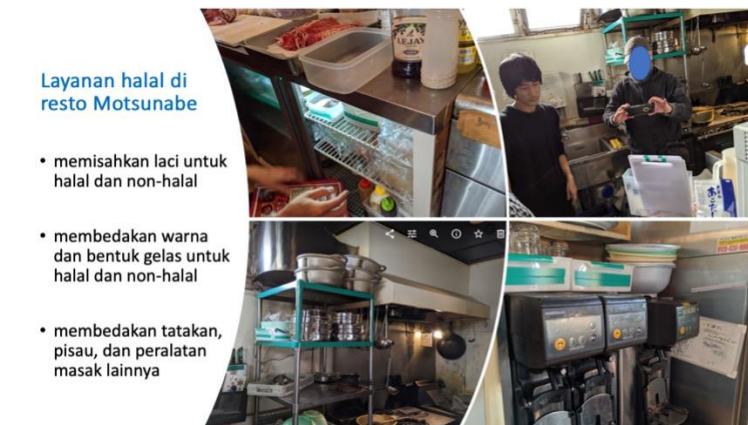


Gambar 1 : Adegan dari video pelatihan layanan halal yang dibuat untuk calon koki yang sedang menjelaskan dapur untuk menu halal harus terpisah segalanya
 (Sumber: <https://halalchef.jp/ハラール研修用マニュアル/>)



Gambar 2 : Central Kitchen Kiwamiya: peralatan khusus untuk Hamburg Halal

(Sumber: foto-foto yang penulis ambil ketika diaudit oleh imam Fukuoka Masjid)



Layanan halal di resto Motsunabe

- memisahkan laci untuk halal dan non-halal
- membedakan warna dan bentuk gelas untuk halal dan non-halal
- membedakan tatakan, pisau, dan peralatan masak lainnya

Gambar 3 : Central Kitchen Kiwamiya: peralatan khusus untuk Hamburg Halal

KIWAMIYA'S HALAL MENU
Our Halal Menu has got Halal Certificate from Fukuoka Masjid!

Shibuya PARCO branch(Tokyo),Namba branch(Osaka)
Fukuoka PARCO branch(Fukuoka),Hakata branch(Fukuoka)

100% Halal Black Wagyu Hamburg
HALAL 黒毛和牛使用

Enjoy each bite as you cook with your own hot stone!!

Menu	Cash	Alcohol	Beef	Egg	Milk	Pork
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Regular 150g **1090yen** (1199yen)
Double 300g **1890yen** (2079yen)

All side menu items are free refills
Set (rice, soup, and salad) **¥300**
*Please do not share side menu items. (330yen)

Rice **¥150** (145yen)
Soup **¥100** (110yen)
Salad **¥200** (220yen)

For Shibuya PARCO branch(Tokyo) and Namba branch(Osaka), our Halal menu hasn't get received Halal Certification. But we use the same Halal Certified Hamburg steaks as our Hakata branch and Fukuoka PARCO branch. Our 100% Halal Black Wagyu Hamburg has been certified as Halal by Fukuoka Masjid An Noor Islamic Center since December 2019.

www.kiwamiya.com/halal/

*Supported by "Kitakyushu Muslim Friendship Promotion Project" of Kyushu International University.

Gambar 4 : Brosur Resto Kiwamiya

References

樋口直人 (2000) 「食文化の越境とハラール食品産業の形成：在日ムスリム移民を事例として」『徳島大学社会科学研究第』 13: 99-131. (<https://repo.lib.tokushima-u.ac.jp/187>) (akses terakhir 13 Maret 2021)

Kalam TV (2021) “Fatwa MUI tentang Produk Halal oleh Ustadz Aminuddin Yacub MA.” Video rekaman pengajian Subuh pada tanggal 13 Maret 2021 melalui Zoom.

<https://www.youtube.com/watch?v=XJUBybWmV6M> (akses terakhir tanggal 15 Maret 2021).

観光庁 (2015) 『ムスリムおもてなしガイドブック—ムスリム旅行者の受入環境の向上を目指して』 観光庁 (<https://www.mlit.go.jp/common/001101141.pdf>)

大形里美 (2020) 「日本における「ハラール対応」の現状と課題—レストラン『極味や』による「ハラール対応」の取り組みと福岡マスジドにおける「ハラール認証」無料発行の意義—」『九州国際大学国際・経済論集』 6: 1-36.

(https://kiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=785&item_no=1&page_id=25&block_id=33)

Pengajaran Kata Bilangan dan Penjodoh Bilangan Berasaskan Data Korpus Digital

**Norliza Jamaluddin
(Universiti Pendidikan Sultan Idris Malaysia)**

Abstract:

Dalam era teknologi digital, penggunaan komputer dalam pengajaran semakin meningkat. Dalam pengajaran bahasa, khususnya tatabahasa, data korpus digital kerap kali dijadikan bahan pengajaran bagi membolehkan pelajar meneliti bentuk sebenar bahasa bagi mengetahui perilaku dan struktur sesuatu bahasa. Bagi Bahasa Melayu, dalam mempelajari frasa nama, khususnya dalam kalangan penutur asing aspek kata bilangan dan penjodoh bilangan kerap kali menjadi masalah. Seperti bahasa lain, bahasa Melayu mempunyai beberapa kata bilangan yang perlu disesuaikan dengan kata nama dan perlu digandingkan dengan penjodoh bilangan. Penjodoh bilangan ini pula harus menjelaskan bentuk kata nama yang dirujuk. Disebabkan kata nama memiliki pelbagai kata bilangan dan penjodoh, maka bagi menjelaskannya, data korpus dapat digunakan sebagai bahan pengajaran bahasa kerana data korpus mampu memaparkan contoh penggunaan yang sebenar. Jumlah data yang banyak mampu memaparkan kepelbagaian contoh kehadiran kata bilangan dan penjodohnya bagi membantu penutur asing memahami bahasa Melayu sama seperti penutur jati Melayu.

Pengenalan

Kata bilangan dan penjodoh bilangan tergolong dalam subgolongan kata tugas. Kedua-dua kata ini hadir dalam frasa nama bersama-sama kata nama. Kedua-dua bentuk kata ini kerap digunakan oleh penutur Melayu apabila mengungkapkan sesuatu frasa nama. Bagaimanapun, bagi penutur bukan jati bahasa Melayu, penggunaan kedua-dua bentuk kata ini agak menyukarkan kerana perlu diketahui bentuk setiap kata nama dan perlu disesuaikan bentuk nama tersebut dengan kata bilangan dan penjodohnya. Untuk menjelaskan frasa ini, khususnya dari segi kata bilangan dan penjodohnya, maka kertas kerja ini menyarankan penggunaan data korpus berkomputer. Hal ini disebabkan data korpus berkomputer mampu menjelaskan bentuk tipikal kata bilangan dan penjodoh bilangan serta kata nama yang sepadan dengannya seperti yang lazim digunakan oleh penutur natif.

Tambahan pula, penggunaan data korpus ini dapat menunjukkan pola kolokasi kata yang hadir bersama-sama kata nama. Ini membolehkan pelajar menyelidiki bentuk penjodoh bilangan dan kata bilangan yang sesuai digunakan bersama-sama sesuatu kata nama. Pengajaran frasa nama berbantuan data korpus dapat menjadikan pengajaran bahasa menjadi lebih menarik kerana pelajar akan meneroka binaan frasa nama dan meneliti bentuk penggunaan kata bilangan dan penjodoh yang pelbagai sifatnya. Guru atau pengajar hanya bertindak sebagai fasilitator yang membantu pelajar dalam memahami pola frasa nama bahasa Melayu.

Kata Bilangan

Kata bilangan ialah sejumlah perkataan yang menjadi penerang kepada jumlah kata/frasa nama. Dari segi penggolongan, kata ini tergolong dalam subgolongan kata tugas dalam kategori prafrasa, iaitu kata yang hadir di hadapan frasa, iaitu frasa nama. Kata bilangan merupakan golongan kata yang digunakan untuk menghitung atau membilang sesuatu kata nama. Menerusi kata bilangan ini, jumlah atau bilangan kata nama dinyatakan jumlahnya sama ada secara kelompok atau menyatakan bilangan sebenar sesuatu kata nama. Dari segi jenis, kata bilangan ini dapat digolongkan kepada enam, iaitu kata bilangan tentu, tak tentu, pecahan, pisahan, himpunan dan tingkat.

Kata bilangan tentu atau kardinal ialah kata bilangan yang digunakan untuk membilang sesuatu yang telah tentu sifatnya atau menyatakan jumlah sebenar sesuatu kata nama. Misalnya *tujuh, sebelas, tiga puluh lima* dan *tujuh ribu lima ratus* ialah kata bilangan yang menyatakan jumlah sebenar atau secara tepat bilangan kata nama yang diterangkan. Kata bilangan tak tentu pula ialah kata bilangan yang digunakan untuk merujuk sesuatu yang tidak diketahui jumlahnya. Lazimnya kata bilangan ini merujuk kepada sekumpulan benda dan bersifat jamak, iaitu menjelaskan kelompok kata nama. Antara kata bilangan tak tentu adalah seperti *segala, seluruh, sesetengah* dan *beberapa*. Bagi kata bilangan pecahan, kata bilangan ini digunakan untuk merujuk sebahagian atau beberapa bahagian kecil daripada keseluruhan sesuatu. Lazimnya bahagian kecil ini kata bilangannya terlebih dahulu dinyatakan dan perkataan *per* digunakan bagi menjelaskan keseluruhan sesuatu yang dibilang. Misalnya *satu per empat* merujuk satu bahagian kecil daripada keseluruhan sesuatu yang ada empat bahagian. Begitu juga *satu per dua*, atau *tiga per lima* dan sebagainya, iaitu *per* membawa maksud tiap-tiap sesuatu. Selain itu, bilangan pecahan ada yang tidak menggunakan perkataan *per* seperti *setengah, separuh* atau *suku* yang secara khusus merujuk kepada bilangan yang telah tetap. Misalnya *suku* merujuk secara khusus bilangan satu bahagian daripada empat bahagian, manakala *setengah* merujuk satu daripada dua bahagian yang sama banyak jumlahnya.

Kata bilangan pisahan pula ialah kata bilangan yang digunakan untuk merujuk sesuatu kata bilangan secara terpisah atau secara berasingan antara satu sama lain. Kata bilangan pecahan ini tidak banyak dalam bahasa Melayu, antaranya *setiap, tiap-tiap* dan *masing-masing*. Kata bilangan himpunan pula merujuk bilangan dalam bentuk jamak yang dikumpulkan dalam bentuk kelompok. Kata bilangan himpunan ini lazimnya dalam bentuk gandaan dan hadir bersama-sama imbuhan awalan *ber-, ke-* dan *-an*. Contohnya *berguni-guni, berbakul-bakul, kelima-lima buah buku, kedua-dua, ratusan* dan *pengunjung*. Kata bilangan tingkat atau kata bilangan ordinal pula merujuk kepada kata bilangan yang mempunyai turutan. Lazimnya kata bilangan ini didahului oleh *ke-* + kata bilangan. Misalnya *kelima, kedua puluh* dapat menunjukkan urutan atau kedudukan sesuatu.

Penjodoh Bilangan

Penjodoh bilangan merupakan perkataan yang menjelaskan bilangan, bentuk atau jenis kata nama dan lazimnya hadir pada posisi sebelum sesuatu kata nama. Kehadiran penjodoh bilangan ini dapat memberikan gambaran secara jelas dan tepat sesuatu kata nama. Misalnya *biji* dan *tandan* dalam frasa *lima biji pisang* dan *setandan pisang* dapat menjelaskan bentuk tunggal atau jamak bagi *pisang*. *Biji* merujuk

bentuk tunggal dan dalam keadaan terpisah-pisah, manakala *tandan* merujuk sekelompok pisang dalam bentuk gugusan atau jamak. Menurut Za'ba, penjodoh bilangan ini menjeniskan dan memadankan bilangan sesuatu kata nama. Umumnya, penjodoh bilangan terdiri daripada lima jenis, iaitu penjodoh bilangan tunggal, kumpulan, partitif, bekas dan ukuran standard.

Penjodoh bilangan tunggal menjelaskan kata nama yang dinyatakan dalam bentuk tunggal. Contohnya *biji, helai, buah, hidang, keping* dan *ekor*. Penjodoh bilangan kumpulan pula merupakan penjodoh bilangan yang digunakan untuk menyatakan jumlah dalam bentuk jamak atau secara kelompok. Contohnya *gugus, longgok, bakul, jambang, sisir*, dan *tandan*. Bagi penjodoh bilangan partitif, penjodoh ini digunakan untuk merujuk sebahagian daripada keseluruhan sesuatu benda atau perkara. Penjodoh bilangan yang digunakan ialah *genggam, kerat, cubit, belah, potong* dan *ruas*. Penjodoh bilangan bekas pula merujuk kepada bilangan atau hitungan kata nama yang berasaskan tempat yang digunakan untuk meletakkan atau menyimpan sesuatu kata nama. Misalnya *lima guni padi – guni* digunakan sebagai penjodoh bilangan bagi menjelaskan hitungan padi berdasarkan bekasnya, iaitu *guni*. Contoh lain bagi penjodoh bilangan bekas ialah *botol, pasu, gelas, pinggan, kotak* dan *cawan*. Penjodoh bilangan standard pula merujuk ukuran standard bagi sesuatu panjang atau jarak, berat, keluasan dan masa. Contohnya *kilometer, kaki, kilogram, kati, liter* dan *ekar*. Penjodoh bilangan yang pelbagai ini dapat menerangkan bentuk, saiz atau sifat sesuatu kata nama.

Pengajaran Berasaskan Data Korpus Digital

Di Barat, penggunaan data korpus (DK) dalam pengajaran tatabahasa di institusi pengajian tinggi telah berlangsung sejak dua dekad yang lalu (Johns, 1986; Romer, 2006 dan Chambers, 2007) dan jumlah ini semakin meningkat seperti yang dikatakan oleh Chambers (2007), iaitu “consultation of corpora by learners appears to be increasing in higher education”. Di Sweden dan beberapa tempat yang lain, pengajaran berasaskan data – PBD (*corpus based learning – CBL*) dan pengajaran berpacuan data PPD (*data driven learning - DDL*) pada peringkat pengajian tinggi telah dilaksanakan (Vannestal, dan Lindquist, 2008). Penggunaan DK dalam pengajaran berasaskan data bermaksud penggunaan data bahasa dalam bentuk data korpus digital yang autentik dan berskala besar dalam pengajaran linguistik. Autentik dan skala besar ini amat penting dalam pengajaran linguistik kini kerana pelajar diperlukan untuk menganalisis bahasa dari segi struktur, pola, makna, fungsi dan idiom sebenar yang digunakan oleh penutur natif daripada sejumlah data yang besar saiznya.

Penggunaan DK dalam pengajaran tatabahasa ini amat bertepatan dengan pengajaran abad ke-21 kerana pelajar bertindak sebagai penyelidik linguistik dalam setiap siri kuliah dan tidak sekadar sebagai pendengar yang pasif. Menerusi kaedah ini, pengajaran dapat dilaksanakan secara induktif, iaitu pengajaran tatabahasa tidak dimulai dengan penjelasan terhadap aspek tatabahasa secara mendalam, tetapi dimulakan dengan cara pelajar meneroka data terlebih dahulu bagi mengesan sesuatu pola tatabahasa. Setelah itu, pelajar diminta untuk membuat kesimpulan terhadap aspek tatabahasa yang diteliti dan barulah dibincangkan secara bersama oleh pelajar dan pensyarah tentang aspek tatabahasa yang diteliti. Berbanding pendekatan tradisional, pelajar hanya menerima aspek-aspek linguistik yang dikuliahkan berasaskan kajian

oleh peneliti-peneliti linguistik awal tanpa berasaskan data sebenar. Oleh itu, aspek linguistik yang dipelajari lebih kepada ayat-ayat ciptaan oleh penahu yang disesuaikan dengan teori sedia ada. Oleh itu, pengajaran berasaskan DK ini tidak dimulai dalam posisi *tabula rasa*, iaitu penelitian dan penaakulan aspek bahasa bukan berdasarkan teori tetapi berasaskan pengamatan terhadap bentuk bahasa sebenar dan kuliah dijadikan tempat penyelidikan dengan pelajar dan pensyarah menjadi penyelidik. DK merupakan bentuk baharu dalam pengajaran tatabahasa – morfologi, sintaksis dan analisis wacana – yang berbeza daripada pengajaran tradisional. Dari segi latihan-latihan yang diberikan semasa pengajaran berlangsung juga amat berbeza kerana berasaskan bahasa sebenar yang diperoleh dari data korpus berbanding sebelum ini latihan tatabahasa berasaskan rekaan atau ciptaan pengajar atau diambil daripada buku-buku tatabahasa tertentu.

Dari sudut data korpus, penggunaan data korpus dalam penyelidikan linguistik telah berlangsung seawal tahun 1940-an (McEnery et al., 2006). Bagaimanapun penggunaannya dalam pengajaran bahasa hanya bermula pada tahun 1990-an dan sejak itu minat terhadap DK semakin meningkat. Hal ini terbukti dengan terlaksananya beberapa konferen *Teaching and Language Corpora* (TaLC) di Lancaster (1994), Oxford (1998), Graz (2000), Bertinoro (2001), Granada (2004), Paris (2006) dan Lisbon (2008). Sejak itu juga artikel dan penulisan yang berkaitan dengan korpora dan pengajaran bahasa semakin meningkat yang membincangkan korpora dalam pedagogi bahasa, iaitu yang melibatkan perbincangan dari sudut huraian berasaskan data korpus, analisis korpus di dalam kelas dan korpora pelajar.

Pengajaran tatabahasa yang berasaskan data korpus amat penting dilaksanakan kerana data korpus mampu menjelaskan kata, frasa, klausa dan ayat yang beroperasi dalam sesebuah teks untuk menghasilkan wacana yang bermakna (Jones dan Daniel Waller, 2015). Secara khusus, data korpus mampu menjelaskan frekuensi kata, kolokasi dan prosodi semantik, iaitu dapat menjelaskan bahawa sesuatu pola tersebut memiliki konteks yang positif, negatif atau bentuk biasa. Oleh itu, menerusi DK, pelajar dapat meneliti semula atau menyangkal atau menolak intuisi tentang bahasa apabila pelajar sendiri menjadi pengkaji. Di England, pengajaran berasaskan DK telah dimuatkan ke dalam kurikulum bahasa sebagai subjek Bahasa Inggeris sebagai bahasa pertama sejak tahun 1990-an lagi dengan tujuan membina kesedaran dan meningkatkan pengetahuan pelajar tentang bahasa (Jones dan Waller, 2015). Misalnya pelajar ditunjukkan penggunaan perkataan *well* yang berbeza-beza antara konteks membeli-belah dengan konteks kesihatan. Perbezaan ini ditunjukkan menerusi kata yang berkolokasi dengan perkataan *well*. Dengan pendedahan seperti ini, pelajar dapat mengenal pasti sesuatu kata dengan lebih mendalam dan memahami sesuatu kata dengan lebih baik. Di samping itu, pengajaran berasaskan DK ini berjaya menjadikan pengajaran lebih menarik dan dapat mengekalkan minat pelajar terhadap pembelajaran bahasa kerana mereka akan menemui pelbagai aspek berkaitan sesuatu kata.

Bagi pengajaran tatabahasa bagi bahasa kedua dan bahasa asing, penggunaan DK didapati amat membantu pelajar memahami bahasa yang dipelajari dengan lebih baik kerana pelajar dapat menggunakan sesuatu kata atau ayat sama seperti penutur jatinya. Perhatian yang harus diberikan dalam mempelajari bahasa kedua bukan semata-mata tatabahasa, tetapi tumpuan perlu kepada pola penggunaan sesuatu kata dan makna yang didukung oleh makna tersebut apabila bergabung dengan perkataan tertentu. Menurut

Sinclair (2004), leksikal dan struktur frasa yang boleh dipercayai tidak boleh didapati daripada intuisi seseorang tetapi dapat ditunjukkan dengan jelas menerusi data korpus. Bahan pengajaran sebelum ini banyak bergantung kepada intuisi (menerusi buku teks dan buku latihan yang dihasilkan menerusi ayat rekaan penulis) bukan berdasarkan data sebenar. Jones (1986) merupakan individu yang pertama mencadangkan DK digunakan di dalam pengajaran bahasa.

Baris Konkordans Penjodoh Bilangan

Pengajaran berbantuan data korpus dapat dilaksanakan dengan guru atau pengajar memuat turun baris konkordans bagi kata yang ingin diajar. Bagi pengajaran kata bilangan dan penjodoh bilangan, kata kunci yang dipilih perlulah terdiri daripada penjodoh bilangan. Menerusi baris konkordans ini, pelajar didedahkan dengan bentuk frasa nama berdasarkan penggunaan sebenar oleh penutur natif. Menerusi baris konkordans ini, pelajar akan diminta untuk mengesan kata bilangan dan melakarkan pola kehadiran kata bilangan yang hadir bersama-sama penjodoh bilangan dan kata nama. Figure 1 merupakan contoh baris konkordans bagi penjodoh bilangan *biji*.

Berdasarkan kepada baris konkordans ini, pelajar yang tidak begitu mahir bahasa Melayu dapat melakarkan struktur frasa nama dan mengesan polanya, iaitu urutan frasa yang didahului oleh kata bilangan dan diikuti oleh penjodoh bilangan serta kata nama. Oleh itu, berdasarkan kepada baris konkordans yang diteliti, pelajar mampu menjelaskan rumus frasa nama bahasa Melayu, iaitu frasa yang terdiri daripada :

kata bilangan + penjodoh bilangan + kata nama

Di sini, guru/pengajar juga boleh membantu pelajar dengan menjelaskan bahawa bagi penjodoh bilangan *biji*, kata ini menjelaskan kata nama yang berasingan sifatnya sama ada dapat dihitung secara tepat atau dihitung dalam secara berkelompok, bergantung kepada kata bilangan yang hadir bersama-samanya. Misalnya, apabila *biji* hadir bersama-sama kata bilangan tentu seperti *satu, tiga, empat, tujuh* dan *30*, penjodoh bilangan ini digunakan kepada kata nama yang boleh diasing-asingkan, tetapi bagi kata bilangan *beberapa*, jumlahnya tidak diketahui secara tepat tetapi masih kata tersebut terasing sifatnya.

Pada masa yang sama, pelajar juga boleh mengenal dengan jelas bentuk kata nama yang boleh digandingkan dengan penjodoh bilangan *biji*. Misalnya berdasarkan baris konkordans ini, antara kata nama yang boleh digunakan dengan perkataan *biji* ialah *beteri, bawang, batu permata, bola, buah, butang, cili, durian, epal, gelas* dan *kelapa*. Dengan memaparkan baris konkordans ini pelajar dapat meneliti kepelbagaian kata nama yang boleh digandingkan dengan *biji*. Analisis ini boleh ditunjukkan dalam contoh di Figure 2.



Figure 1: Baris Konkordans bagi Penjodoh Bilangan Biji

BIJI - KOLOKASI

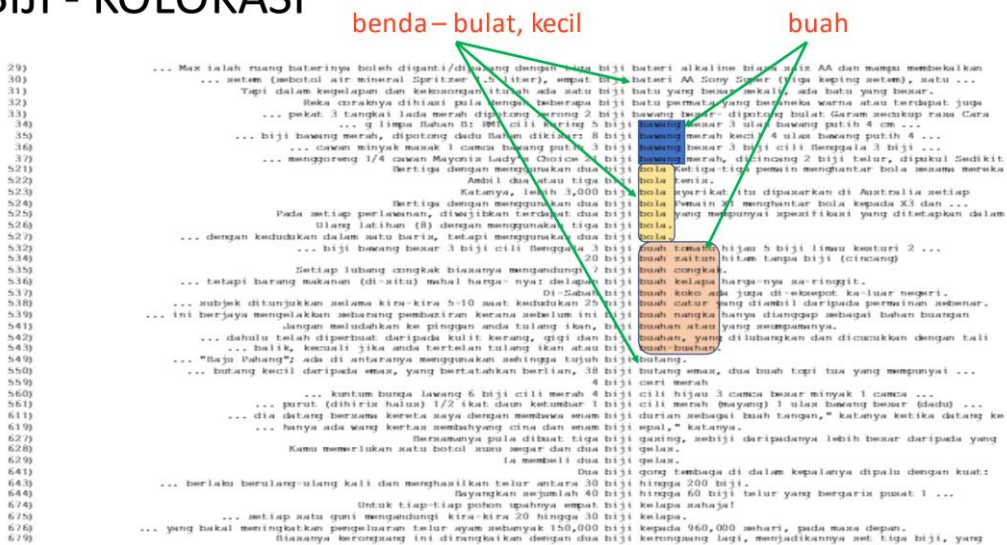


Figure 2: Kolokasi Kata dengan Biji

Oleh itu, berdasarkan kepada kata yang berkolokasi ini, guru boleh meminta pelajar untuk membuat kesimpulan jenis atau bentuk kata nama yang sesuai untuk digandingkan dengan *biji* – pelajar misalnya boleh menyimpulkan bahawa kata nama yang sesuai untuk *biji* ialah kata nama yang umumnya bersaiz agak kecil, dan lazimnya berbentuk bulat.

Berdasarkan penjelasan pelajar ini, guru boleh memaparkan beberapa baris konkordans lain dan meminta pelajar untuk melakukan analisis. Di sini, pelajar boleh melakukan perbandingan antara beberapa penjodoh bilangan yang lain, misalnya *cebis* dan *das*. Contoh konkordans adalah seperti yang berikut:

```

Carian Kata      : cebis
Bil. Konkordans : 29 konkordans dijumpai.
1)              Namun, aku tidak dapat mengutip cebis bicaranya dari peti memoriku yang celaru.
2)              ... jika pun lebih, teman yang hilang ini, menurut cebis catatan di hadapanku, berada di Eropah, sementara wanita ...
3)              Apa yang kita dapati sekarang ini cuma beberapa cebis cerita-cerita mereka yang dipetik di sana sini tanpa ...
4)              ... batang, bentuk, bidang, biji, bilah, buah, buku, butir, cebis , cucuk, ekor, gugus, helai, ikat, iris, jambak, kawan, ...
6)              ... didengari atau benar sepanjang masa; atau barangkali pengaruh cebis feminisme yang terdorong melihat semua lelaki saingan untuk
8)              ... aku berlindung dari lahir, di sana, di celah cebis gurun kunilai kembali diri yang sudah tidak lagi ...
9)              ... yang dikongkritkan melalui kata selebar tapak, di celah cebis gurun seperti dalam petikan di bawah:
12)             Begitu laparnya aku, setiap biji nasi, setiap cebis ikan dan setiap titik kari aku habiskan.
13)             Seperti dirinya tidak perlu ditanya berapa cebis jasa disumbang dan berapa balasan yang diberikan.
14)             Gadis itu membuka bajunya, membuka setiap cebis kain yang melekat di tubuhnya.
15)             ... dan menjumpai serpihan konkrit itu yang berbungkus dalam cebis kain sutera dan disorok di atas rak-rak di ...
16)             ... warna emas, perca kainnya disiat dan dilemparkannya beberapa cebis ke danau ini."
17)             ... dan itulah dipalit ke depan dan ke belakang cebis kelok berlarik runcing warna coklat tua.
18)             ... itu adakalanya mengujakan dan pada sisi lain meninggalkan cebis kenangan yang berpeta dalam ingatan bagi jangka masa ...
19)             ... kertas pembalut majun," kata Haji Dasuki sambil menghidu-hidu cebis kertas nipis berwarna kusam yang diambilnya dari tangan ...
20)             Beberapa cebis kulit dan daging melekat di hujung kuku-kuku tangannya.
21)             cebis kulitnya ke tanah dan kita
24)             Hanya beberapa cebis nota yang disimpan untuk membantu ingatannya serta
25)             ... terluang sangat singkat, namun dia berjaya mengutip setiap cebis perbualan yang mengisi suasana di Olai Tannon.
26)             ... dengan cermat, meski dasarnya mudah sahaja, digulung dua cebis perca dan disilangkan, kemudian diikat dengan benang untuk
28)             Sambil pekerja Alam Flora memungur setiap cebis sampah di jalan, tuan punya kedai makan itu ...
----- END-OF-FILE -----

```

Figure 3: Baris Konkordans *Cebis*

```

Carian Kata      : das
Bil. Konkordans : 462 konkordans dijumpai.
7)              Serentak dengan itu juga tembakan meriam sebanyak sembilan das akan dilepaskan.
8)              Serentak dengan itu tembakan meriam sebanyak enam puluh das akan dilepaskan.
9)              ... jenazah itu dilakukan tembakan meriam sembilan puluh tiga das akan dilepaskan.
12)             ... pun bangun berdiri memberi hormat, meriam di-tembak 17 das , askar memberi hormat dengan mengangkat senapang,
44)             Beberapa das bunyi mercun dicampak orang memeriahkan suasana.
45)             Meriam pun di-pasang hingga empat puluh empat das , bunyi-nya riuh-rendah, dan gegak-gempita.
57)             ... dari tubuh-tubuh yang merayap, Mahadi menembak komando satu das dan kemudian dua das, dan sayap kanan dan ...
63)             Maka di-tembak meriam tujuh belas das dan di-mainkan nobat nafiri.
64)             Maka pada ketika itu di-tembak meriam dua belas das dan pukul nobat nafiri seperti adat-nya.
66)             ... Mahadi menembak komando satu das dan kemudian dua das , dan sayap kanan dan sayap kiri serentak menyapu ...
79)             Tapi, kemudian Godse pula menembaknya tiga das dari jarak dekat.
100)            ... Saudagar sampai ke rumahnya, dia pun menembak tiga das dengan senapang untuk menandakan ia balik.
101)            16 September: Seiring dengan 101 das dentuman tembakan meriam dan teriakan merdeka, Perdana
157)            ... tahun dipercayai melepaskan empat das tembakan manakala tujuh das lagi oleh perompak itu.
158)            Sejurus kedengaran satu das lagi tembakan.
159)            Beliau berkata, lelaki itu melepaskan dua das lagi tembakan sebelum melarikan diri dengan sebuah
160)            Izzat melepaskan satu das lagi tembakan.
235)            ... PGA mengejar semua lelaki berkenaan dan melepaskan tiga das tembakan amaran.
236)            ... semakin berani menggunakan senjata api dengan melepaskan beberapa das tembakan.
237)            ... itu, seorang daripada anggota polis itu terdengar satu das tembakan," katanya.
238)            ... sekolah untuk menyelamatkan diri, kedua-dua mereka melepaskan 27 das tembakan dengan menggunakan raifel dan pistol berkuasa
239)            Tanpa menunggu sesaat lagi, Inspektor Redzuan melepaskan dua das tembakan yang menembusi bahagian belakang tubuh
240)            ... pembantu rumah dan tukang kebun itu mendengar dua das tembakan dari tingkat atas banglo berkenaan.
241)            Wong berkata, berikutan itu, lelaki berkenaan melepaskan dua das tembakan tetapi tidak mengenai kedua-dua beradik

```

Figure 4: Baris Konkordans *Das*

Seperti yang dilakukan terhadap konkordans *biji*, guru boleh melakukan hal yang sama bagi konkordans *cebis* dan *das*. Oleh itu, menerusi konkordans yang diberikan ini, empat elemen yang boleh dijelaskan oleh pelajar ialah:

- i. urutan kata dalam struktur frasa
- ii. kata yang boleh berkolokasi dengan sesuatu penjodoh bilangan
- iii. bentuk penjodoh bilangan sama ada bersifat tunggal atau terdiri daripada gugusan atau sekumpulan kata nama.
- iv. rumusan tentang bentuk dan jenis kata nama yang boleh digandingkan dengan sesuatu penjodoh bilangan.

Pengajaran bahasa berasaskan konkordans bukan sahaja meneliti bentuk penjodoh bilangan yang berbeza, tetapi guru atau pengajar boleh menjelaskan perbezaan antara kata nama yang sama tetapi berbeza sifat dan bentuknya apabila hadir bersama-sama penjodoh bilangan yang berbeza. Contoh buah *durian* boleh dibezakan bentuknya dengan jelas menerusi penjodoh bilangannya. Yang berikut merupakan contoh yang diambil daripada data korpus:

- Pembeli hanya dapat makan **beberapa ulas durian** yang dibeli.
- Ann memilih **sebihi durian** yang baik isinya lalu memakan **seulas dua**.
- Sebelum tidur aku ghairah sekali menghabiskan **sebihi durian**, kebetulan ayah membeli **selonggok durian** petang itu.
- Anggota penguat kuasa merampas **sebakul durian** sebelum beredar dari situ.

Berdasarkan kepada contoh ini, seseorang yang baru mempelajari bahasa Melayu dapat didedahkan dengan penjodoh bilangan yang berbeza yang digunakan bagi menggambarkan bentuk kata nama dengan lebih tepat. Penggunaan *ulas* misalnya dapat menunjukkan bahawa yang diperkatakan ialah isi durian, manakala *biji* merujuk kepada buah durian secara keseluruhan sementara *bakul* dan *longgok* merujuk kepada bentuk jamak atau sekelompok buah durian yang tidak diketahui bilangannya secara tepat.

Kesimpulan

Pengajaran berasaskan data korpus ini menjadikan pengajaran tatabahasa berbentuk penerokaan, iaitu pelajar sebagai penyelidik dan pelajar diberikan autonomi untuk menjelaskan sesuatu aspek tatabahasa dan pembelajaran lebih berpusatkan pelajar dan pensyarah hanyalah sebagai pemudah cara. Tiga elemen penting dalam pengajaran seperti ini ialah:

- i. identifikasi
- ii. klasifikasi
- iii. generalisasi

Identifikasi bererti menggunakan baris konkordans untuk menganalisis struktur frasa nama.

Setelah itu, pelajar melakukan klasifikasi, iaitu menentukan unsur yang hadir di kiri dan kanan penjodoh bilangan yang merupakan kata kunci. Pada tahap ini, pelajar dapat membuat jangkakan awal struktur frasa nama berdasarkan unsur-unsur yang hadir dalam baris-baris konkordans yang dianalisis serta dapat meneliti pola frasa nama. Pada tahap generalisasi, pelajar dapat membina rumus frasa nama bahasa Melayu yang terdiri daripada kata bilangan + penjodoh bilangan + kata nama.

Pengajaran seperti ini melibatkan pelajar untuk meneroka, menganalisis, mengesan pola, meramal, menaakul, melakukan inferen dan akhirnya mencatatkan dapatan dan memahami bentuk sebenar bagaimana frasa nama bahasa Melayu yang digunakan oleh penutur jatinya. Oleh itu, pengajaran tatabahasa tidak lagi bersifat pasif tetapi pembelajaran tatabahasa berlangsung dalam suasana yang aktif, momentum pengajaran dapat dikekalkan sepanjang pengajaran, pelajar dapat memahami aspek tatabahasa yang diajarkan dengan lebih baik, iaitu pelajar tidak lagi menghafal formula tatabahasa tetapi lebih kepada memahami bentuk tatabahasa yang bermakna. Oleh itu, nilai-nilai pembelajaran abad ke-21 dapat diterapkan secara langsung menerusi pembelajaran berasaskan data korpus berkomputer.

Rujukan:

- Boulton, A. (2016). Integrating corpus tools and techniques in ESP courses. *ASp*, 69, 111-135.
- Braun, S. (2005). From pedagogically relevant corpora to authentic language learning contents. *ReCALL*, 17(2), 47-64.
- Chambers, A. (2007). Popularising corpus consultation by language learners and teachers. In Tenorio, E. H., Quereda, I., & Santana, J. (Eds.), *Corpora in the foreign language classroom* (pp. 3-16). Amsterdam, New York: Rodopi.
- Johns, T. (1986). Micro-concord: A language learner's research tool. *System*, 14(2), 151-162.
- Johns, T. (1991). Should you be persuaded. Two samples of data-driven learning materials. *English Language Research Journal (New Series)*, 4, 1-16.
- Jones, C., & Waller, D. (2015). *Corpus linguistics for grammar: A guide for research*. New York: Routledge.
- Kamariah Yunus. (2017). Corpus linguistics: Application in the 21st century. *International Journal of Academic Research in Progressive Education and Development*, 6(3), 137-152. ISSN: 2226-6348.
- Kennedy, C., & Miceli, T. (2017). Cultivating effective corpus use by language learners. *Computer Assisted Language Learning*, 30(1), 91-114.
- McEnery, T & Wilson, A. (1997). Teaching and language corpora. *ReCALL*, 9(1), 5-14.
- McEnery, T & Xiao, R. (2010). What corpora can offer in language teaching and learning? In Hinkel, E. (Ed.), *Handbook of Research in Second Language Teaching and Learning Vol. 2* (pp. 364-380). London & New York: Routledge.
- Nik Safiah Karim et al. (2008). *Tatabahasa Dewan Edisi Ketiga*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

- Romer, U. (2008). Corpora and language teaching. In Ludeling A. & Kyto, M. (Eds.), *Corpus linguistics. An international handbook* (Vol 1., pp. 112-130). Berlin: Mouton de Gruyter.
- Thakur, V. S., & Al-Mahrooqi, R. (2015). Orienting ESL/EFL students towards critical thinking through pictorial inferences and elucidation: A fruitful pedagogic approach. *English Language Teaching*, 8(2), 126-133.
- Vyatkina, N. (2016). Data-driven learning for beginners: The case of German verb-preposition collocations. *ReCALL*, 28(2), 207-226.
- Za'ba. (1961). *Pelita Bahasa Melayu Penggal 1* (Cetakan Ketiga). Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

Funding: This research was funded by the Sultan Idris Education University (UPSI), Malaysia under LEARNING AND TEACHING INNOVATION GRANTS. The approved Grant code number is: 2018-0189-107-01.

日本インドネシア学会会則

第1条 本学会は「日本インドネシア学会」（インドネシア語名称 Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh Jepang、英語名称 Japan Association for Indonesian Studies）と称する。

第2条 本学会はインドネシアを中心とした言語、文化、文学等に関する研究の発展および会員相互の協力を促進することを目的とする。

第3条 本学会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- ① 機関誌の発行
- ② 研究発表のための大会の準備
- ③ 会員総会の開催
- ④ 会員への連絡および協力促進
- ⑤ その他必要な事業

第4条 本学会の会員は第2条の目的に賛同し、所定の会費を納めたものとする。

2. 入会の際には、5年以上会員であった者1名の推薦により、会員総会における承認を求める。
3. 特別な理由なく3年以上にわたり、所定の会費を納めないものに関しては、本人の意思を確認の上、総会において除籍する。

第5条 本学会の発展に寄与し、会員総会において承認されたものを名誉会員とする。

2. 名誉会員からは会費の徴収をせず、機関誌を贈呈する。

第6条 本学会の会員は、大会（総会および研究発表）への参加、機関誌への投稿、機関誌の被配布の権利を有する。また、会費納入の義務を負う。

第7条 本学会に次の役員と委員を置く。

- ⑥ 会長1名
 - ⑦ 監査委員1名
 - ⑧ 事務局委員（総務担当1名、学会誌担当1名、会計担当1名）
2. 会長の任期は3年とし、重任をさまたげない。
 3. 監査委員および事務局委員は、会長がこれを委嘱し、会員総会において承認を経なければならない。
 4. 監査委員および事務局委員の任期は3年とする。
 5. 当番校は事務局と協議の上、研究発表のための大会および会員総会を開催する。

6. 会長は、「日本インドネシア学会会長選挙規程」の定めるところにより、会員総会において選出する。

第8条 本学会の事務は事務局が執り行う。

2. 本学会の事務局を東京外国語大学（郵便番号 183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1）内におく。

第9条 本学会会則の改正は会員総会において行う。

第10条 本学会の会議は会員総会とし、毎年少なくとも一回会長が招集する。

2. 会員総会は、全会員の3分の1以上の出席をもって成立し、議事は出席会員の過半数をもって決する。
3. 総会の議事は、事務局の総務担当が執り行う。

第11条 本学会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

2. 本学会の会計年度は、10月に始まり翌年9月に終わる。
3. 決算報告書は、会員総会に提出し、その承認を経なければならない。

附則 この会則は1998年12月14日より発効する。

2007年11月10日 一部（7条1, 2, 3, 4, 5項、8条1, 2項、9条1項、10条1, 2, 3項、11条1, 2, 3項）改正、即日施行。

2008年11月8日 一部（4条2項、10条2項）改正、即日施行。

2016年11月19日 一部（第1条）改正、即日施行。

会費等に関する細則

この細則は、会則第4条の規定のうち、会費の施行について定める。

2. 会員の会費は、年額3000円とする。

付則 この細則は1998年12月14日より発効する。

2008年11月8日一部（2項）改正、3項削除、即日施行。

以上

編集後記

『インドネシア 言語と文化 Bahasa dan Budaya: Journal Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh Jepang』第27号をお届けいたします。

本誌は、2020年11月7日(土)に東京外国語大学を当番校としてオンラインにて開催されたインドネシア学会第51回研究大会における発表報告をもとに、改めて投稿していただいた論稿を掲載したものです。

第51回研究大会のプログラムは以下のとおりです。

2020年11月7日(土曜日)開催

場所: Zoom ミーティングによるオンライン開催(当番校: 東京外国語大学)

- 10:30-10:40 開会の辞, 進行説明
- 10:40-11:15 自由発表 01
佐近優太(東京外国語大学大学院博士後期課程)
「インドネシア語の最上級について」
(Tingkat Superlatif dalam Bahasa Indonesia)
- 11:15-11:50 自由発表 02 【発表者の都合によりキャンセル】
~~Diess Alwi Tutiarta (南山大学大学院)~~
~~“Imbuhan ‘meN kan’ Sebagai Pembentuk Alternasi Kausatif”~~
~~(インドネシア語の自他交替について)~~
- 11:50-12:25 自由発表 03
三宅良美(秋田大学)
「中部ジャワにおける今日の人称代名詞と呼びかけ語」
(Personal pronouns and addressing forms in current Central Java)
- 12:25-13:20 休憩
- 13:20-14:20 会員総会
- 14:20-14:55 自由発表 04
大形里美(九州国際大学)
“Kondisi Layanan Halal di Jepang dan Tantangannya — dari Studi Kasus Restoran “Kiwamiya” (日本におけるハラール対応の現状と課題—レストラン「極味や」を事例に—)
- 14:55-15:30 自由発表 05
Dr. Norliza Jamaluddin (Universiti Pendidikan Sultan Idris, Malaysia)
“Pengajaran Penjodoh Bilangan Berasaskan Data Korpus Digital”
(デジタルコーパスデータに基づく助数詞の教育)
- 15:30-15:45 休憩

- 15:45-16:20 自由発表 06
南家三津子
「東ジャワ海外出稼ぎ村におけるジェンダー関係の変容：『労働』と『お金』の関係を中心に」
(Changing Notions of Women's Work and Money: Rural East Java in the Era of International Migration)
- 16:20-16:55 自由発表 07
西島薫（京都大学学際融合教育研究推進センター）
「カリマンタンの「無力」な祭司王に関する一考察」
(A Study on a “Powerless” king in Kalimantan)
- 16:55-17:00 閉会の辞

インドネシア 言語と文化

Bahasa dan Budaya: Jurnal Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh Jepang

第 27 号

編集者： 高地 薫（神田外語大学外国語学部）

発行者： 日本インドネシア学会 Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh Jepang

<http://nihon-indonesia-gakkai.org/>

連絡先： humas@indonesia-gakkai.sakura.ne.jp

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 インドネシア研究室気付 青山亭

Prof. Toru Aoyama

c/o Indonesian Studies Program, Graduate School of Global Studies,

Tokyo University of Foreign Studies

3-11-1 Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534, Japan

発行日： 2021 年 9 月 20 日

ISSN： 1882-9848
